

あると云ふ時には其の作品が原始藝術の特徴を出して居る事を意味する。即ち技巧の成熟しない時代の作品を指す。

**アレゴリー Allegory (英)** 比喩、寓意等の意で、従つて繪畫となるときは非現實的な場合が多く、何ものかを諷刺した深刻の繪あり、物語的の寓意を現はしたものとあり、滑稽なるあり、諧謔あり、神話的のものもある。

**アクセント (英) Accent** アクサン (佛) 抑揚、しまり。畫面の調子、或は線等に特別な急所を描出すること。例へば明暗のしまりを鋭くつける様な場合、色彩等では或る一點に強い目を引く様な色を用ひて全體を引きしめたりする時に用ひられる。

**アール・ヌーヴオー Art nouveau (佛)** 本來此の語は新美術の意味であるが、此の語の特殊な意味は一九〇〇年頃に一時佛蘭西に流行した美術上の様式を指すのである。其の特徴は裝飾畫の方面に主として現はれ、輪廓に柔い曲線を自由に使つたものである。色彩は一體に軽く淡いものである。

**アマトゥール Amateur (佛) Amateur** アマチュア (英) 素人。アマトゥールの畫家と云ふ事は、一方に或る職業を持ち傍ら畫を描く人、餘技としての畫

家をさして呼ぶ。近來は専門の畫家と肩を並べる者が多々見受けられる。

**アトリエ Atelier (佛) ステュディオ (英)** 工房、仕事場、畫家の畫室、彫刻家の仕事場、其他寫眞撮影場等アトリエと呼ぶ。畫室としては、常に一定の光線を得られるやうに北側の天井、及び窓のみの採光をよしとする。人物、靜物以外に風景畫であつても、戶外で寫生する計りでなく畫室に於て製作される場合もある。

**アティテュード Attitude (英、佛)** 態度、姿勢。繪畫の方面ではモデルになる人物の態度、姿勢等を云ふ。

**アトモスフェール Atmosphère (佛)** 雰圍氣、空氣。畫面は平たいものであるが、そこに描かれた物と物の間には距離が表はされて居なければならぬ。最も近くに描かれた物と雖も自ら觀者との間に距離がなければならぬ。これを空氣と云ふ。又物を包む光線には時間によつて或は環境によつて異なる色彩がある。畫家は此の光線即ち空氣を透して見たものを描かねばならない。更に畫家は時折の氣持によつて感じ方が違ふ譯である。故に、その主觀を透して見た解釋がそこに現はれなければならない。是等によつ

て現はされた氣分をも、總稱してアトモスフェールと云ふ。

**アウトライン Outline (英)** 外廓線。すべての物の外廓を現はす線で、東洋畫に於ける場合と、西洋畫とは、多少其の趣を異にする。即、東洋の物は外廓線を主として用ひるが、洋風畫では面で構成される立體觀を主とする爲めに、線と云ふ言葉の上に多少意味の相違がある。最も西洋の物でも特にアウトラインを用ひて描かれたもの、ある事は云ふ迄もない。

**アート Art (英)** 藝術。藝術とは文藝、美術、音樂、劇等を總括した言葉で科學と區別して云はれる。

**アルティスト Artiste (佛) Artist** アーティスト (英) 藝術家。藝術にたづさはる人の意で、畫家、彫刻家、音樂家、文學家は皆アルティストである。

**B**

**物質感** 物質は形態の外に色彩、光澤、感觸、重量等を持つて居る。描き現はされたものがその物質感が表はれてゐると云ふ事はその物個有の、以上の條件が表はされて居ると云ふ事である。即ち陶器は陶器としての色彩、光澤、手ざわり、重さ、又素燒

は素燒として獨特の條件、其他他布、金屬等あらゆる物に獨特の現れを持つてゐる。

**ブラッシュ・ワーク Brush-work (英)** 筆技。筆觸、筆勢等もブラッシュ・ワークに含まれるが、内容と離れた筆先の技術の意味にも用ひられる。

**ブルーズ Brouse (佛)** 仕事着。畫家が製作をする時に着る上つ張で普通粗末な麻地、木綿などで作られて材料店で販賣されてゐる。

**バランス Balance (英、佛)** 均衡、釣合。例へば畫面の組立に於て、中央縦線に對し左右の適當な均衡を得ないと不安定な感を觀者に起させる。バランスは其意味で繪畫の構成上非常に重要な物である。之は建築に於ても彫刻に於ても、其他人間生活に常に大きな働きをなすものである。

**バルビゾン Barbizon (佛の地名)** 十九世紀前半頃佛蘭西に起つた風景畫派で、當時のロマンチズムの感化が大いにある。コロ、ルツソー、デアーズ、ドビニー等最も著名である。

**ブラック・アンド・ホワイト Black and white (英)** 黒と白、即單色畫の意。普通繪と云ふうちを彩色畫と無彩色畫(單色畫)との二種に分ける事が出来る。一切の色彩を除外した墨一色の繪に於ては繪として



C B

の要素をたゞ墨一色で表現しなければならぬ。線を初め、明暗の調子と量、乃至は色彩感迄も受け持たなければならぬ。墨繪の妙味は紙の色即ち「白」があつて初めて發輝されるもので、白と黒との均齊が最も重大な意味を持つて來る事は勿論である。故に全く調子をぬきにした純黒と白との繪、例へば黒刷木版畫等にはこのブラツク・アンド・ホワイトが最も重大な役目を演じて居ることを見るであらう。

**バック** Back ground (英) 背景、バック・グラウンドの略。西洋畫にありては背景は非常に重大な使命を持つてゐる。畫家は如何にして表現せんとする物をより良く表はさうかと苦心する。赤い林檎を赤いバックの前に置くのは不利である。此の場合緑のバックを使用したなら緑は赤の反對色であるから林檎の赤は一層光輝を發する結果を生ずる。要は主要又は中心物の特性を遺憾なく表現する爲に使用されるもので、之を生かすか殺すかの鍵を握つてゐるものと言ふ事が出来る。

**ボディカラー** Body-colour 繪具。普通水彩畫は透明な繪具で描かれるものであるが、これに白を混ぜ、或は不透明色を以て紙の地等を透さない様に厚く描いたものをボディカラーで描いた繪と云ふ

總じて胡粉の混ぜられた繪具、泥繪具等をボディカラーと云ふ。

C

**調子** Ton (佛) トーン tone (英) 吾々の立體世界には總て光線の支配を受けた明部と暗部がある。最明部から最暗部に至る迄には明さ、及び暗さの中に實に無限の階段がある譯である。この階段を適當に描き現はすことによつて總ての立體感が生れ、色あるものには又同時に色の階段がある。一つの繪の中に描かれた物體は個々に、或は部分部分に明部があり、暗部がある。これ等は互ひに密接な關係があつて、一つの大きな調子、即ち全體を統一した調子を保つのである。その内の一がこれを破つても全體の調子が損はれて來ることは勿論である。これは繪畫の描寫に屢々用ひられる。又繪には調子の高い、即ち強い繪と、調子の低い繪とがある。調子の高い繪は潑瀾として活氣があり、調子の低い繪はこれに反する。

**調和** Harmony (英) ハーモニー 二物以上相互の、美的感覺を起させる事を調和といふ。繪畫に於て、明暗に於ても形に於ても調和がある。色と色

とも之が保たなければ美感は損はれる。

**中間色** 色本來の持ち前の性質に他の色を混じて得た色を中間色と云ふ。近來油繪具に種々の鼠系統の色が作られて居るがこれ等は皆中間色である。例へばグリ・ローズ、グリ・ヴェール、グリ・ジョーヌ等は生の色に白及び他の色(墨)等を少量加へて混ぜ合はせたものである。

D

**ダブル・ナチュール** Duple nature (佛) 自然に即して描く事で、寫生を意味する。

**ディテール** Detail (英) デティユ (佛) 部分。繪のディテールと云ふ事は、畫面全體をさすのではなく、一小部分を云ふので、名畫の複製寫眞などに、屢々ディテールとしてあるのは、一枚の畫面の一局部を明らかにする爲めに引伸ばして詳かに寫し出した物などを云ふ。又、「細部にのみ拘泥して大局を忘れる」と云ふ事、此意味は、畫家がディテールにのみ重きをおき、全體の効果を忘れる様な場合をさして言はれた言葉である。

**デリカー** Delicat (佛) Delicate デリケート (英) 微妙。美しさの中には強堅、剛壯な美、繊麗、微妙

な美しさ等がある。後者はデリカーな美しさがある。畫面の氣分、色彩、感情の優雅なものでデリカーな繪であると云ふ。

**デッサン** Dessin (佛) Drawing ドローイング (英) 素描。繪畫を大別して、彩色畫と單色畫に分けることが出来る。デッサンは此の單色を以て描く場合を指して云ふ事で、それに用ふる材料は普通木炭、鉛筆、ペン、コンテ等である。繪畫の基礎的なものである爲め洋畫習得の第一歩は先づデッサンから始められるのを正則として居る。美術學校あたりでも最初木炭を用ひ、石膏デッサンから、次に人體デッサンに移り、油繪の様な色彩を用ふるものはデッサンを或る程度迄勉強してからやる様にして居る。

**暖色** 人の視覺に映する世界は、形線の美と色彩の世界である。従つて人の感情は之によつて支配され又表現される。色彩は吾人の感情に對し、聯想から又生理的から各個有の本性を有するものである。これを感情の喜悲兩極に分類して暖色と寒色の二種とする。これを原色について例證すれば、黄色は太陽光線に近似してゐるから、暖い感情、快活、壯大等の感を抱かせる。赤は黄よりも強烈に刺戟し、興奮させる特性を持つてゐるから、熱、活氣、活動等



を思はせる。青色は黄色、赤色と反對に寒い感じを起させる。

**ドローイング** Drawing (英) 素描の項参照。

**デコラチーフ** Décoratif (佛) 裝飾的の意。主に寫實的な方面に對して模樣的な氣分を持ったものに用ひられる言葉である。本來は應用美術、即建築、家具、其他の器物等に美的な外觀を附與する目的であるが、純粹の繪畫方面にも此言葉は屢々適用される例がある。

**ドライイング・オイル** Drying oil (英) Siccif シツカチフ (佛) 乾燥油。油繪の乾燥を助けるため、殊に冬季等に於て、解油に之を少量混じて使用する。但し、之によつて畫面の乾燥を不自然に早める事は一方に於て繪を破壊するおそれ即、龜裂、變色等の事故が起るから餘計に使用する事はさけない。

**デコラシオン繪具** Décoration (佛) 壁面の裝飾畫を描く場合、廣大なる面積を塗りつぶすに高價な繪具を以てする事は經濟上にも許されず、その必要もないから、比較的安價な繪具が製造されてゐる。之がデコラシオン繪具である。

**動物畫** 人物畫、風景畫、靜物等に對し、鳥、獸、魚類等を主として描いた繪を動物畫と呼ぶ。人類の

生活に密接なる關係ある動物即ち家畜類は、繪畫、彫刻となつて吾人に親みが深い。日本畫にあつては鳥類は「花鳥」といつて、風景畫、風俗畫等に對して優勢なる地位をなしてゐる。

**デカダンス** Décadence (佛) 廢頹、衰微等の意。何事に於ても全盛の後には衰微凋落の時代が來る事は歴史の證明する所である。美術に於ても此の大勢は免かれぬ。假令健全なる美術と雖もそれに馴れて來ると人間には厭氣が來るものである。夫故に傳統の潮流を破つて見たくなりそれらの支配を受けず自己獨特の境地を開拓して見やうとする結果、從來の法則をかなぐり捨て、人の意表に出る事のみを目的とする事から情落した場合はそれが美術におけるデカダンスと呼ばれる。

**デフォルマシオン** Déformation (佛) 形をくずして描くの意。繪畫の上でデフォルマシオンは、よい意味にも亦悪い意味にも言へる事で、作品の感じを強め又は其の構成上止むを得ない場合、原始人などの稚拙な藝術品の如きは自然に此デフォルマシオンが役立つ場合があるが、變形のための變形と云ふ事は其の價値を低下させる事が多い。

E

**エスキス** Esquisse (佛) 下繪、畫稿。畫家が理想の畫を描かうと思ふ前には色々な準備が必要である殊に大作に取り懸る前に然りである。先づ構圖の研究が必要とされる。それから個々のもの、配置、色彩、感じ等の用意が必要である。エスキスとは準備的骨組を描いた所謂草稿である。

**エキゾテック** Exotique (佛) Exotic (英) 異國情緒。特に畫家が好んで外國風を取り入れたり、又其情調を寫し出す様な場合に此言葉が用ひられる。一例をあげれば、江戸時代に於ける長崎を題材とした物などは最もよく之を現して居る。

**エチュード** Etude (佛) 習作。畫家、彫刻家が研究を目的とする作品は總てエチュードである。又或る大作を製作する豫備として、部分的の研究の爲に描いた、或は彫刻した作品もエチュードである。故にエチュードは完備した作品ではないが、作者にとつては實に貴重なるものである。

**遠近法** Perspective (英、佛) バースペクテイブ。遠近法とは幾何學の一種であつて、即眼で見た立體物を平面上に彷彿させる圖法である。此所に詳

説する事は出来ないが、之の概念は畫家として會得しておく必要があらう。一例としては同一の高さの建築物が並んで居る街頭に立つて、遠方を眺める時遠くに行くに従つて低くなり、遂には一點に合するを見るであらう。道路も同様で遠ざかるに従つて狭くなり遂には建物と同一の點、即地平線の一點に集中される。之を消失點と名づける。以上が最も簡單なる遠近法の原理で、之を本にして吾人の棲息する立體世界をも平面上に寫し出す事が出来る。

**エツフェ** Effet (佛) エフエクト Effect (英) 效果。一面に陽光を受けた明るい風景を描くに、前景に暗い陰に蔽はれた樹木、人物等を配すれば、一層此畫の効果を添える。一個の人物を描くとしても人物の暗い部分の背景に明るいものを置き、明るい部分の背景を暗くすれば、一層の効果を擧げる力がある。

右の如く構圖、彩色、明暗に於てより以上の効果を擧げるやう研究努力すべきである。

**エツサンス・ド・ペトロール** Essence de Pétröl (佛) 精製したる石油、即揮發の一種で、油繪の解油として、單獨にも亦他の濃厚な油、ポツビー、リンシードの如き物と混ぜ合せても用ひる。特にアブソルバ



F

ン・カンバスを使用する場合、畫面の艶をさける爲に適當である。

**エツサンス・ド・テルペンチン** Essence de terebenthine (佛) 樹脂より精製した油で、揮發性の強い物、エツサンス・ド・ペトロールと用途は略々同様である。

**エコール** Ecole (佛) スクール School (英) 流派、學校。師傳によつて自ら一派の傾向の相通するものが窺はれる場合、又地方的、國民的派系があるエコール・フランセーズ (佛蘭西派)

エコール・イタリアンヌ (伊太利派)

エコール・ド・ヴニース (ヴェニス派)

等である。其他學校を指して云ふ場合、エコール・デ・ボーザール (美術學校) の如きである。

F

**布** 置 布置とは配置と同意義の言葉である。觀賞を目的とする繪畫に於けるもの、布置に考慮を要する事は言を俟たない。布置は構圖の全部である場合と、一部である場合とある (構圖の項参照)

**フォルム** Forme (佛、英) 形體、形式。フォルムは場合によつて二様の意味に用ひられる。「物の形」の意に用ひられる事もあるが、又は「形式」の意に

用ひられる事もある。

**フォーヴィスム** Fauvisme (佛) 野獸派。元來フォーヴと云ふ言葉は嘲笑的に云はれたもので、從來の繪畫の因襲、傳統を無視し、純主觀に立脚して創作することから此の野獸が用ひられたのである。マチス、ドラン、ヴラマンク、ブラツク、フリエツ、等これに屬し、佛蘭西今世紀畫壇に革命を起し、劃期的な運動として認められた。

**ファウンデーション** Foundation (英) 下塗、地塗。昔の畫家は一枚の繪を描き上げる爲めに現在の人の知らない苦勞があつた。一枚のカンバスに先づ下塗を施して、その上に筆をとつたものである。——本來下塗はかなり大きな効果を與へるものであるから、之に注意する事も肝要である。下塗には一面に同一色——主にオークル・ジョヌとか鼠とか茶褐色とか——に塗る方法と、上に描くものによつて、部分々々異なる色で下塗する方法もある。以上の下塗も、厚く塗る方法と薄く塗る方法とがある、效果としては下塗が繪の全體に調子を統一する事と、特殊な色彩的效果を與へる事等である。例へば古畫で非常に透明な空の風景畫を研究した結果、オークルジョヌの下塗がしてあつたと言ふ。若しこの空が褐色の下

色である。(透明色参照)

**フォンセー** Foncé (佛) deep ディープ (英) 繪具の色の濃いものにフォンセーの文字がつけられるこれは淡色 (clair) に對して反對の意に用ひられる語である。英語では deep (深い) と云はれる。例へばカドミウム・フォンセー、コバルト・フォンセー等の如し。

**フレスコ** Fresco (伊) 壁面や天井に描かれる特殊の繪で、石灰と石膏との生な地へ描くものである。地の乾かぬうちに敏速に描かねばならぬ爲に一時に廣い範圍に描く事が出来ず、少しづつ畫面を擴大して行かねばならぬと云ふ困難がある。一旦乾いた部には補筆する事が困難であると言ふ缺點があるが、一方繪具が地の石灰と交る爲に、それは堅固なものとなる。ポンペイの壁畫等に徴してもフレスコは古い歴史を持つてゐる事が解るが、之が隆盛を來したのは伊太利文藝復興期で、伊太利各地の寺院に貴重なる作例が數多く残つてゐる。近時は殆どフレスコは忘却された形で、普通の畫布に畫かれた物を壁上に張るやうになつた。此の他に壁の乾いた上に描く乾性フレスコもある。近代のフレスコは大概此の方法を用ひて居る。

F

塗でもあつたら多分其透明さは失はれてゐたらうと言はれて居る。下塗は上に塗る色に影響を與へるので、例へばオークルジョヌと白とを混ぜた色と、白の下塗の上にオークルジョヌを薄くかけた場合後者は前者に比して濁りがなく、そして輝いて見える。下塗をしてから描く油繪の技巧にはグラシと云ふ技巧がある。尙フアウンデーション・ホワイトと稱する下塗用に出來た繪具がある。

**複製** Reproduction レプロダクション (英) レプロデュクシオン (佛) 一つの原畫によつて、それに似せた物を數多く作り、廣く世に紹介する目的を持つ。主として複製は、手輕に求め難い名畫等を鑑賞用或は畫家の參考用として作られる。近來は寫眞製版術と共にその印刷術も非常に進歩した爲め一見原作に髣髴たるものがある。

**不透明色** 油繪は上へ上へと重ねて描く所から全部が不透明色の様に思はれ易いが、繪具の種類によつて透明色、不透明色の區別がある。

白は主として不透明であり、ジョーム・ドナーブル、ブール・ヴェルミオン、ブルー・セルレラム、等は不透明色であり、ラツク類即ちガランス・フォンセー、ガランス・ローズ、ピチユームの如きは透明



F

**フイキサチフ** Fixatif (佛) 定着液。木炭、鉛筆、コンテー筆等を描きあげた場合、擦れたり剥落したりする事を防ぐ爲に作られた液である。普通、松脂、シエラック等をアルコールで溶解したものを霧吹きで畫面に吹きかけ之をとめる。かくすれば表面に樹脂の膜が出来て脱落を防ぎ保存を助ける。特にバステル畫のフイキサチフは其の強力なものをを用ひる必要がある。

**不變色** 畫家が繪具を使ふ場合誰もが不變色を望むは當然であるが、昔は畫家自身が材料を精選して作つた爲め、質のよい耐久的の繪具を使用する事が出来たが、今では繪具屋に行けば任意の色が立所に得られる代り、餘程信用ある會社の品物でなければ安心して使へないと云ふ事になつた。一般に化學的處理によつて出来たものが多いので、空氣に觸れ、光線に會へば、長い時間の間には、嚴密に言へば、變化しない色は絶対にないと言つても過言ではなからう。まして繪を描く爲には色と色とを混合しなければならぬ。異なる成分を持つた色と色の混合であるから化學變化が生ずるのは已むを得ない。故に調合の際には繪具の性質を理解して常に注意して掛らなければ、假令堅牢な色でも變色は免れないことに

なつてしまふのである。  
 数多い色の中比較的不變色(變色と褪色をせぬ)を挙げれば實に僅少なものである。

**白** プラン・ド・ザンク Blanc de zinc (酸化亜鉛)

**黄** ジョウン・ド・カドミウム Jaune de cadmium (硫化カドミウム)

ジョウン・ド・ストロンシヤン jaune de strontiane (ストロンシヤン・クロム酸鹽)

**赤** ヴェルミリオン Vermilion (酸化水銀)

ラック・ド・ガランス Laque de garance (礬土に定着した茜根の色素)

**青** ブルー・ド・コバルト Bleu de cobalt (礬土に定着した酸化コバルト)

ウートルメール Outremer (硫化曹達及硫酸礬土)

**緑** ヴェール・エムロード Vert emeraude (酸化クロム)

**紫** ヴイオレ・ミネラル Violet mineral (磷酸化マンガ)

ヴィオレ・ド・コバルト Violet de cobalt (磷酸コバルト)

G

右の表は繪具として堅牢な色を挙げたのであるが、これとても混ぜる相手の色によりけりである。假令ば一般に褪色し易いと言はれるガランスも單獨に厚く塗つた場合(グラシ参照)殆ど不變と看做してよい。乍然、プラン・デルジャン(シルヴァー・ホワイト)と混ぜると褪色が早い、がプラン・ド・ザンク(ジンク・ホワイト)は此の色に對し何等の作用も及さないのみかこれを保護する傾がある。ヴェール・ド・コバルトは鐵分を含んだマルク系統の色との混合を避けなければならぬ。

G

**畫** 因 Motif モティフ (佛) 畫の主題の意味。人物畫を描く場合には其の人物の特性、或は環境、

風景畫の場合には或る特殊な風景例へば樹木、空、水等。靜物畫の場合には器物、果物、花卉等、其所に配された材料、之等すべてが、それらの畫の動機となつて、描く者に働きかける、之を畫因と呼ぶ。

**グラン・パレール** Grand palais (佛) 巴里市の常設展覽會場、大部分のサロンが此所で開かれる。

**グラシ** Glacis (佛) グレージング Glazing (英) 透明色の上塗をする技法で、近來の油繪には餘り用ひられないが、油繪初期の物には殆ど總べてに、此の技法が使はれてゐる。其の方法は、先づ畫くべき

カンヴスなり、板なりの上に、地塗を施し、それに下がきをなし、其上に主として透明色を油で解いた物を塗り重ねて畫を仕上げる。フランドルのファン・

エツクの畫等は全部此技法を用ひて描いたと傳へられて居る。之は、特殊な地の輝きを現はす物で、一

見、ガラス繪の様な感じを見る者に與へる。

**グアッシュ** Gouache (佛) 胡粉繪具の一種。水彩繪具の一種であるが、水彩繪具に比しても少し不透明な

繪具で比較的大きな面積をむらなしに塗ることが出来る爲め圖案用にも用ひられる。瓶又は鉛管入にな

つてゐる水彩畫のやうに水で溶かして描くことも出来る。又色をうすめるにはホワイトを用ひる所は油



繪に似てゐる。

**グロテスク** Grottesque (佛) 奇異な、奇怪な。グロツト (Grotte) 即ち洞穴に住む未開の民族の粗野な奇怪な美術から出發した狂妄的人物や空想的動物を挿入した異様な題材を取扱ひ、又はアラビヤ風を加味した繪畫、彫刻の裝飾様式等をも言ふ。一般に奇怪な、脱線的な、或は常識を超えて尨大な物等に對して此の言葉が用ひられる。カリカチュールの中にはグロテスクと言はれるものが多分にある。(カリカチュール参照)

**ギアラリー** Gallery (英) Galerie (佛) 畫廊。此の語はもと二つの建築物を結ぶ長廊下に用ひられたが大建築に於ては屢々此の廊下を繪畫を以て飾られたところから繪を陳列する長方形の室をギアラリーと呼ぶ様になつた。美術館の陳列室は概ねギアラリーであるが方形の居室は特にサロンと言はれる。英國のテート・ギアラリー、ナショナル・ギアラリー等の如く美術館と同意義に用ひられる事もある。

**原色** 原色とは赤、青、黄の三色を指して云ふ。天地間を彩る自然物及び人工的の色は多種多様であつて、吾々の眼で識別し得る色だけでも六〇〇乃至七〇〇の多きに上つてゐる。今太陽光線を三稜鏡

(プリズム) で分解すると、光は屈折分配して、虹のやうなスペクトラム (色帯) が現はれる。これを大別すれば即ち赤、橙、黄、綠、青、藍、紫の七色となる、斯く分散した有色光線を合一すると再び白色光線に還元してしまふ。乃ち、白色に見える太陽光線は實は之等の有色光線の合したものである事がわかる。スペクトラムの七色を各單色と云ふ、其の内赤、黄、青の三色を普通三原色と云ふ。然し、光の三原色を應用して各種の繪具を作ることとは出來ない。何故ならば光の場合と顏料の場合とは其の根本性質を異にしてゐるからである。

**グループ** Groupe (佛) Group (英) 集團。畫面に用ひられる場合には群像の意味を現し、人に用ひられる時は團體の意味である。或る畫家の集團などと云ふ時は此のグループに適應する。

**外光** Plein-air (英) 外の光の下に描く事を外光で描くと云ふ。昔は風景畫などでも畫室に於て畫いた物であるが、近代に於て自然の寫生を野外でなし、季節、時刻等を如實に寫し出す目的の爲めに外光を用ふ。之は十九世紀印象派の畫家連によつて始められた事で、之を外光派などとも言ふ。

**ガラス繪** 硝子の一面に彩色を以て描き、他の面か

ら之を見る様にした一種の畫法である。一般の繪と違ふ所は、繪具を重ねる場合、普通の畫に於ては最後に描くべき箇所を、反對に、最初に描き、最初に描くべきものを最後に色づけると云ふ順序で仕上げられる。例へば人物の顔などでは、眼の描寫など最後に行くべき細部から描いて行くのである。ガラス繪の技法には只ガラスに着色して、そのままに乾かす方法と、油で溶いた繪具を適度の火度で焼いて固着させる方法とがある。支那のガラス繪の如きなかゝ面白物が間々見うけられる。

**技法** Technique テクニク (佛) 技巧。繪畫に於ける此言葉は、畫家が、種々な材料を用ひて描く場合にとる手段、方法を云ふのである。油繪には油繪の技巧があり、水彩には水彩の技法があると同時に、各人各様の便宜な方法を持つてゐる。すべてそれらの總稱をテクニクと云ふ。

**畫品、畫韻** 共に繪畫の風韻、品格を云ふ。「此の畫は畫品が高い」或は「畫韻に乏しい」などと言ふ文句がある。

**額縁** 一枚の繪を仕上げた場合、それに適應する額縁を選ばなければならない。之は丁度、東洋畫に於ける表装と同じもので、繪畫は額縁と相俟つて

一段の纏りを見せる。之の選擇は、相當の考慮を以て、本來ならば、一枚の繪によつて、額縁も之に調和したもので、それと違ふものをつける方がよいが、そう行かぬ場合は成るべく、各繪畫に邪魔をしない様な用式の物を選ぶ事が肝要である。歐洲各國に於ては各時代の様式を持つた彫刻又は型模様の縁が用ひられて居る。現代に於てもそれらを参考として模された額縁が澤山ある。なほ、額縁のことを畫家の間では略してフチとも言はれる。

**群像** 群像畫とは二人以上の人物を配し適當な組合せをなした畫面を言ふ。群像畫の目的としては——配置された數個の人物の布置の妙味、——それ等が互に密接なる關係を保つて居る事——體と體、手足等の交錯、或はそれ等が相互に形作る線の連鎖線の運動、線のリズム——等の事が重要な問題である。

**畫商** 畫商とは畫を賣買する商人で我國の書畫屋に相當するものである。最近日本でも油繪の畫商が出來はしたが、佛蘭西邊のものに比較するとまだ規模が非常に違ふ。彼等は國際的に取引もし又大いに趣を異にしてゐる。畫の賣買の點では何れも同じ事であるが、一方に於てこんな事をもする。彼等は



H

無名の年少畫家に向つて常に注意の眼を向けてゐて將來有望そうな者を發見すると、將來の生活の保證を與へ、多額の學費を給して繪の勉強に没頭させる。但し此の勉強期間中の作品は全部畫商の所有に歸する契約をするが、その勉強期限は頗る寛大で人にもよるが十年、廿年を厭はない。普通五十歳前後迄只管勉強させ、その作品を貯へて置く。そして時機の至るを待つて大々的に宣傳をして個人展覽會を開き大いに人氣を煽る。昨日迄の無名の學生は一躍一流の大家として社會に飛躍する様な場合もある。

H

**反對色** 補色は互ひに反對色である。即ち青と橙、緑と赤、紫と黄は相互に反對色である (補色の項参照)

**補色** 餘色と同じ。三間色即ち橙、緑、紫は各二原色を等分に混じて出來た色で、何れも三原色中の一を全然含んで居らぬ譯である。間色と、それに含まれぬ一原色を相互に補色と名づける。即ち橙と青、緑と赤、紫と黄は相互に補色である。

**筆技** 表現の目的を達する爲めの繪筆の操作を筆技と言ふ。(筆觸の項参照)

變

**變色** 繪具は礦物質、植物質、動物質の天然物と、化學的操作によつて作つたものがある。それ故にこれ等の繪具で描いた畫を長時間空氣と日光に曝して置くのであるから、假令如何に堅牢なる繪具でありとも多少の變化は免れない。主として礦物性の繪具は堅牢のものとして居る。化學的操作による繪具の使用法としては相互に化學的變化を起さぬ様注意すれば變色の懼れが割合に少ないが、此の點の知識を缺くか、不注意の使用法をなす時は變色を來す場合が多い。中には極めて短時間に變色を起す事さへある。又完成した繪もニスを施して畫面の保證をなし、直接空氣、濕氣に觸れしめぬ様にせぬ時は、變色を來すこともある事を注意したい。又畫の裏面から空氣中の埃の中にある種々の成分と、それらが吸收する濕氣等の爲めに變化を招く懼れがあるので裏面からもこれが防備材を塗布して置くことをよしとする。要するに變色には自然變色、使用上の不注意より起る變色及び後の手當の缺除から招く變色との三通あることを知る。(不變色の項参照)

平

**筆** 穂の毛を相當の厚さに平列した筆を云ふ昔は油繪に用ふる筆は主として丸筆であつたが塗布の便宜上平筆を多く用ひる様になつた。

**ハンド・スケッチ** Hand sketch (英) 小型のスケッチ判。手で支えて野外の寫生等をするに便利な程度の油繪スケッチを指して云ふ。

**版畫** 手を以て描く繪の他に版畫がある。即ち種々の材料の上に版を起して、印刷の技術によつて多數の類似の畫を作る事が出来る半工業的の藝術である。故に版畫は繪としての味ひと同時に印刷上の技術も考慮して觀なければならぬ。版畫は材料の種類と技術の相違から種々の名稱が附せられる。

**木版畫** 木版に刀を以て印刷するもので日本古來の錦繪等は皆この木版である。

**石版畫** 石の上に施された特殊な工程によつて印刷する版畫で、自由な印刷が得られる。

**銅版畫** エツチングと稱して、普通銅版に特殊の耐酸性の地塗を施したる上を鋼筆を以て描き、其の地塗の剥げた部分を硝酸其の他の酸で腐蝕せしめ、地塗を洗ひ落せば銅面に凹版を得る。之によつて印刷したものである。

**ポアント・セーシュ(ドライポイント)** エツチングと似たる結果を呈する版畫であるが、地塗を施さず、鋭利な然かも丈夫な鋼鐵の針を以て銅面に直接繪畫を刻する、やはり凹版である。

H

**メソテイント** 銅又は銅面に特殊の器具を以て縦横に細かな密接平行なる線を引きて版面を毀け置き刷られて明るくなるべき部分は削刀で削る。又最光部は艶笥で擦る。斯様な操作をして作られる一種の凹版である。(此の他版畫の種類は非常に多い。リノリウム版、芋版、モノタイプ等。)

**壁畫** 壁畫は建築物の壁面を裝飾するといふ使命を持つて居るものであるから、純粹繪畫に比して、特殊の束縛と繪としての重點の置き所が違ふ事は言を俟たない。壁畫にはフレスコ(フレスコの項参照)とカンブラスに畫いたものを嵌め込んだものとの二種がある。繪畫としての重點の相違とは、壁畫は元來建築の裝飾を目的とするものであるから、繪が裝飾的、或は模樣的である事を要する。故に人物、風景等の描寫にも寫實味を離れたものが多い。歐洲では個人の廣間等にも壁畫は見られるが多く、寺院、公共建築物等に施されてゐる。寺院の壁畫は遠く繪畫の原始時代より行はれ、宗教を主題とした繪畫及び模様を以て満たされてゐる。印刷術の發明される前の時代には、書籍を以て教義を教へる事が出來なかつた爲に、繪畫を以てした。故に寺院の壁畫は教義の解説に重要な使命を持つてゐた。又畫家は此の



H

目的の爲に最善の努力を拂つた。斯くして宗教は繪畫の母體であり、又その發達を助けた事は印度、支那、日本等に於ても何れも事情を同じうして居る。

**筆觸** トウツシエ Touche (佛) タッチ Touch

(英) 繪畫の表現上の技巧で、表現効果を助ける一助となる。元來繪畫は精神の表現であるが、形體の美、調子の均齊、色彩の配合で、イデーは或る程度現はされるが、技巧上の筆觸が其の表現を援けるに力ある事は云ふ迄もない。形態の表現にも、調子の均齊にも、色彩の配合にも、繪具の塗布、點綴にも用筆の驅使を持たなければならぬ。そこに畫家獨自の運筆の跡が遺される。之乃ち筆觸である。尤も油繪の中には殆ど筆觸を現はさずに描く例外もないではないが。……日本畫に於ては運筆は非常に重大視されてゐて、中には精神を忘れて専ら運筆の妙のみ事とするやうなものさへ見受けられる。

**表** 現 言葉を変へれば發表である。即ち己の意志、感情を他人に傳へる方法である。詩人は音律的言語を以て、音樂家は音を以て、畫家は色彩を以て己が意志、感情を表現する。ものを表現するには心理的表現法と物理的表現法とがある。即ち主觀的表現法と客觀的表現法とであり、繪畫に於ても亦然

りである。

一個の物を表現するに忠實に外觀を描いて概念的に客觀的に人の鑑識に訴える繪と、畫家の感情を卒直に畫面にぶちまけて即ち己の主觀のみを以て畫いた畫とある。これ等は表現の様式の種類である。

**ハイ・ライト** High Light (英) 高光。立體的のものには必ず明部と暗部とその中間の幾段かの調子がある。明部の中にも自ら段階があつて立體の説明をなす。明部の中の最明部をハイ・ライトと云ひ、表面の平滑なるものは光線を集中反射する。滑らかなるもの程その部分は地の色を失ひ光線その儘の色を反映する。例へば玻璃器、陶器、林檎等の光つた部分の如き。ハイ・ライトには、明るい色を用ひる事は勿論であるが、盛り上げを行ひ色彩的効果の他に物理的反射を利用する事が多い。(盛り上げの項参照)

**ハイ・トーン** Half tone (英) Demi-ton 半調子 (佛) 半調子。高光と陰の部分の中間にある調子を半調子と云ふ。此の部分が一番物本來の色調を明かに現はして居る。これを押し廣めて物體の濃淡何れとも判別し難い箇所をも此の文字を當てはめ繪畫的には極く強い光も、極く暗い陰影も避けたものを半調子の繪と呼ぶ。霧につゝまれた畫面など其の一

例である。

**ハーモニー** Harmony (英) 調和。手法の統一、形や線の共調、色彩の諧和等により、同一精神の表現を成すものに云はれる。

同種類の物の調和と、對立したものの調和と二種ある事を添へたい。例へば色彩調子に於て、或は形線に於て相反するものをおいて之を融和させる手段は、對立的調和であり、同系統の是等を以て統一させる物とは自ら其所に相違のある事を認めなければならぬ。

**インスピレーション** Inspiration (英) 靈感。畫家は感激を生命とする。これに活き、これを表現する事によつて製作慾が生じ、製作によつて又感激が生れる。此の反復の間に、自ら期待せざる天來の感興が突如として來ることがある。これが所謂靈感である。

**イラストレーション** Illustration (英) イリュストラシオン (佛) 挿畫。畫家が新聞、雜誌、圖書の間に繪を挿入して、其文章を助け一層の興味を喚起させる目的で描く畫を挿畫と云ふ。

**イーゼル** Easel (英) Chevalet シェヴァレ (佛)

畫架。繪を描く時にカンヅスを載せて安定さす爲めの臺である。畫架には室内用、戸外用のもの二種ある。室内用のものは、簡單なるものより、カンヅスの上下、傾斜等の操作を機械的になし得る高級品に至る迄構造の異なるもの多數種ある。何れも室内に於てのみ使用される爲め形體も大きく目方も重い。戸外用の畫架は携帯に便なる様何れも折りたゝみ伸縮自在の三本のカンヅスを止める装置を有してゐる。又目方も持てる範囲内で軽く出來てゐる。戸外寫生では風の襲撃を覺悟せねばならない。依てなるべく堅牢なるものを選定する事を要する。

**イムパスト** Impasto (英) 盛り上げ法。油繪の描き方は上へ上へと重ねて描くから、何れの部分も自然肉がついて盛り上つて來る。又餘りに薄く塗り方をすれば、時を経るに従ひ色の力を減殺されて來るから比較的厚く、そうして畫面一様に塗る事が望ましい。然し盛り上げとは此の場合の意味ではない。インパストは特に或る部分ハイ・ライトの箇所等に行はれる技法である。ハイ・ライトの部分に厚く置かれる場合等には色としての明度が強調されるのみならず、盛り上つた繪具に當たる光線の反射が更にそ



K J

の効果を助ける結果になる。つまり色彩的效果と物理的效果の併用である。

**陰影** 立體には必ず明部と暗部が付きものである。厳密に言へば、立體の暗部は陰(Shade シェード)であり、投ずる影は影(Shadow シヤドウ)である。陽部のみでは立體感は表はし難い。暗部があつて初めて完全になるのである。暗部は直接光線の缺如せる部分であるがそこには必ず他の影響即ち反射があつて、周囲の色彩の影響を反映するものである事を注意すべきである。構圖の上からは、陰影の分量と明部の分量とのバランスにも注意したい。

**イタツベラ** スケッチ板の略語(スケッチ板の項参照) **板寸** スケッチ板(四號)の略語(スケッチ判参照)

**イミテーション** Imitation (英) イミタシオン(佛) 模倣。他人の作品、作風を真似て描く事、偽物を作る意味に用ひられる。

J

**實在感** 繪畫上の實在感とは描かれた物象が實在的聯想を誘起させる事を實在感があると云ふ。

**地塗** (フアウンデーシヨンの項参照)

K

**カンブス** Canvas (英) Toit トワル(佛) 畫布。

カンブスは麻、半麻、木綿等の布地に地塗を施して描くに都合よいものである。油繪に普通であるがたまには水彩畫、パステル等にも特殊なカンブスが使用される。織糸の種類によつて、荒目、中目、細目の別があり、塗料の施し方によつて、吸収性のものと不吸収性の物がある。前者を名づけてアブソルバン・カンブスと云ふ。之は艶のない畫面、壁畫、裝飾畫等に其の効力が使用される時が多い。描く場合適當な大きさ(號數)の枠に釘で強く張り、たるみのない様にするのが肝要である。カンブスの號數は小さい数が小さく、數を増すに従つて大きさを増す。

**カリカチュール** Caricature (佛、英) 戲畫、漫畫、諷刺畫。法則、羈絆に拘束されず、自由酒脱な畫風で人物、動物、植物等を描くにしても、ユーモアを主とするものであるから、その儘の姿には描かず、殊更にその特徴を思ひ切り誇張して描く。漫畫家は社會の有名なる人物を捕えて、奇怪な顔に描いたり甚だしきは動物にしてしまつたりなどの失禮をも敢てするが、社會からは咎められないのは此畫風の儲

K

けものである。カリカチュールは彼等にとつては職業であるが、一面、彼等の鬱奮の晴し所である。之等は一個の獨立した繪畫として、價値のあるものもあるが、大體二種類に分ける事が出来よう。一は滑稽を主としたもので、輕いユーモアの表現から抱腹絶倒せしむるやうなもの、一は諷刺を目的として輕い皮肉から、骨を刮るやうな深刻な諷刺、比喩的のものがある。

**クレヨン** Crayon (佛) 佛語のクレヨンと云ふ文字は本來、鉛筆、コンテ、等の總稱に用ひられてゐるが、我國ではクレヨン畫など、いつて、特種な材料をさして此名稱が用ひられる。

**後期印象主義** Post Impressionism ポスト・イムプレツシヨニズム(英) 佛蘭西に起つた十九世紀のイムプレツシヨニズム(印象主義)に對し斯く呼ばれた。イムプレツシヨニズムが外光を主體とし科學的に立脚して居たのに對し、これは又主觀への展開を企てた。代表的畫家として、セザンヌ、ゴッゲ、ゴーギャン、アンリー・ルツソー等を擧げることが出来る。而してこれ等の作家は各現代に於ける新しい繪畫の先驅者であり創設者であることを否定出来ない。繪

**空間** 簡單に云へばあきまこと云ふ事になる。繪

畫に於ける空間は此のあきま(餘白)の意味と、物と物との距離、描かれた物と觀者との間にある距たり等を指して云ふ言葉で、平面的な餘白と、距離、奥行きの立體的な方面との兩様を含む。(餘白参照) **コンクール** Concours (佛) 競技。總べて技量を戦はせその優劣を定めることをコンクールと云ふ。展覽會に於ける入選落選及び授賞等もコンクールである **ガンブス張り** 普通畫布は木の枠に張つて描くのであるがこれを張る爲めには相當の力が要る。其れ故に特殊な道具(先の廣いやつとこ様のもの)即ちカンブス張りが用ひられる、油繪畫家にかくべからざる道具である。

**空氣** Atmosphère (佛) アトモスフェール。霧圍氣。アトモスフェールの項参照

**クラシック** Classique (佛) Classic (英) 古典。古代の古典的な美をさして古典と云ふ。例へば希臘彫刻は西洋に於けるクラシックである。

**クラシシズム** Classicism (英) 古典主義。古典的な作品を慕つて後世の作家が古典風の畫を描く、之を指して古典主義と言ふ。佛蘭西に於けるダヴィッド、其教へをうけたアングル派は古典主義を代表して居る。



K

**解剖學** 人體描寫の正確な構造を知る爲めに、美術家は解剖學を學ぶ。美術家に必要なる解剖學は體の形成、筋骨の運動に關する研究で、その分野は骨學及び筋學、外形等の科目である。即ち骨の構成、同じくその各部の比例と運動範圍及び之を覆ふ筋肉とその運動に於ける状態等の研究である。

**コロレー** Colare (佛)「潤色したる」と云ふ意味。畫面の色調がよくこなれて潤ひを持つて居る場合に「コロレーした繪」と呼ぶ。

**寒色** 色の有する感じの上から暖色、寒色の二種に分類したものである。寒色は即ち、寒い感じのする色で、詳しくは暖色の項参照。

**間色** 赤、黄、青の三原色中二つのものを混じて得た色を間色と名づける。(原色参照)

**巨匠、名匠** 優れた作家、偉大なる作品を残した大家をさして尊敬の意をこめて呼ぶ言葉である。例へば「印象派の巨匠マネー」と言つた様な意味である。

**均衡** (バランスの項参照)

**キャラクター** Caracère (佛) Character キャラクター (英) 特性。一つの繪に作者の特徴がハッキリ現れて居る場合と描かれたる人物等の特徴性格が明らかに居る場合、共に其のキャラクターが出

て居ると言ふ。例へばゴヤの肖像畫の如き、描かれたる人物の風貌特性が遺憾なく表現されて居るが是などは實にキャラクターがよく現はされて居ると言つてよからう。

**こま** 同じ型の二枚の油繪を持つ場合、四隅にこれを差し狭み畫面と畫面とが密接しない爲めに造られたもので直徑五六分、厚さ四五分程の圓筒形の木片に中央から表裏に貫通された針を有する獨樂に似た形のものである。主として野外寫生等に繪具の乾かないものを携帯する時に用ふ。これと同じ目的の爲めに携帯用カンヅス狭みがある。こまは最も簡單なものである。

**クレール** Clair (佛) Light ライト (英) 明るい。繪具の濃度を表する爲めにフオンセー Fonce と對稱して反對の意を示す。(フオンセーの項参照)例へばカドミユーム・クレール、コバルト・クレールの如し。

**噴霧器** 木炭畫の剥落を止める爲めにフイクザチフを吹きかける器具で、二本の細い管の各々の口を直角に出合ふ様にし、一端を液體に充して器中に入れ、他端を口で吹けば極めて細かい霧が出る様になつてゐる。

**構成** Construction コンストラクション (佛)

コンストラクション (英) 組み立てを意味し、建築に用ひられる言葉で、主として立體の場合が多い。繪畫方面では立體感を現はす面の構成色彩の構成等の語が用ひられる。

**カートン** Carton (佛) 厚紙、ボール、紙等をカートンと呼ぶ。木炭畫を描く場合の、用紙を狭む畫板も普通カートンと呼び、油繪を描く板代用の厚紙をも呼ぶ。油繪用としては、ボール紙に地塗をした物と、紙其のまゝの物とがあり、カートンに布を張りつけた物もある。

**コレクション** Collection (英、佛) 蒐集・所藏品、研究の爲め或は趣味の爲めに繪畫とか彫刻すべての美術工藝品を廣範に亘つて蒐集保存する人がある。一藝術家の作品のみを蒐集する好事家もあれば、一流派の作品のみを集める者もある。コレクションとは右の意味に於て蒐集、所藏されたる藝術作品の總括名稱である。

一例として我國に於ける大原コレクション、佛國に於てはルーブル美術館のカモンド・コレクション、英のウォーレス・コレクション等名をよく知

K

られて居る。

**コントラスト** Contrast (英、佛) 對照、對比。  
**コスチューム** Costume (英、佛) 服裝、衣裳。裸體畫に對して、衣服を纏つた人物畫を指してコスチュームと言ふ。コスチュームに於ては人物の顔、手、足等。人體の表現であると同時に、衣服の色調、皺等の描寫を目的とする。此の場合衣服は單に衣服であつてはならない。人間の纏ふた衣服であり、これをとれば、其所に肉あり骨ある均齊のとれた人體が現はれて來なければならぬ。即ち衣服の上に生ずる線、起伏、皺等は人體を包むもので、言ひ換れば畫家は衣服を透して人體描寫をして居るのである事を忘却してはならない。

**クロツキー** Croquis (佛) 速寫。英語のスケッチに相當する。即ち短時間の寫生である。瞬間的印象の記録であり、即ち作意を交へない印象の儘なるノートである。自然より受けた忠實なるメモである。短時間の寫生であるから、鉛筆、コンテ、ペン等で簡單な手法を以て描かれる。畫家、彫刻家等は、常にクロツキーから種々の纏つた作品を生む糧を得る事が多い。

**カラリスト** Colourist (英) コロリスト Coloriste (佛)



L K

色彩的效果を目的としその作品が、華かな調和に優れた畫家をカラリストと云ふ。

**コンポジション** Composition (英、佛) 構圖。家を建てるには先づ設計しなければならぬと同様に繪を製作する前にも先づ構想をしなければならぬ。繪には一つの主體があり、即ち中心物を生かし表はす爲には、その周囲のものを如何に配置したらいいか即ちその配列、組立を考へる。この配列、組立の如何によつて此の繪は支配されるものである。自然の寫生であれば、主體を何處に置いて周囲のものを何處から何處迄を繪の中に取り入れるか、即ち切り取りも之に屬する。構圖は繪畫としての發表様式の第一要件である。一枚の繪の價値は構圖によつて左右されるものであるから、それにかゝる前に充分吟味考へを惜しんではならない。

**コンテール** Conte (佛) 寫生材料で黒色又は褐色の粉末を煉り固めて棒状にしたものと、鉛筆の如く木筆の蕊としたものとある。鉛筆よりも軟質で艶がない。人體、風景、靜物等の素描に用ひられて獨特の雅致がある。使用に際しては、指頭で摩擦して半調色を出す事等は殆ど鉛筆と異ならない。が、水筆を以て洗つて半調色を出す技巧はコンテ独自のもので此

の點鉛筆の持たない味ひがある。コンテール畫を保存するにはフイキザチフを以て定着する必要がある。  
**キヤロスキュロ** Chiaroscuro (伊) 明暗。繪畫の明暗の配置をキヤロスキュロと云ふ。一色の明暗のコントラストで描かれた畫をキヤロスキュロの繪と普通云ふ。レムブランド、近代に於けるキヤリエール等が其の効果を擧げるに最も優れた畫家である。

L

**リンシード・オイル** 亞麻仁油の項参照。

**リュクサンブール** (美術館) Musée de Luxembourg ミュゼ・ド・リュクサンブール (佛) 佛蘭西巴里市にある國立美術館の名前で、主として新しい美術の常設陳列所である。

**ローカル・カラー** Local colour (英) 物體個有の色を云ふ場合——即ち光線によつて變化を受けたものでなく其の物の地色を指して云ふので普通ハーフトーンの部分がこれを示す。地方色と云ふ場合——此の言葉の意味を押し廣めて、國、地方の特徵、即ち、其の土地の風俗習慣等を極めて正しく表現する事に用ふ。  
**ルーブル** (美術館) Louvre (佛) 佛國國立美術館

として實に世界的な物である。各國の代表的な美術の粹を集め英國ロンドンのブリテイッシュ・ミュージアムと並び稱せられて研究者の見逃せない處である

M

M

**モザイク** Mosaic (佛) 色大理石、其他鑛石の一片を適宜の形に切り、繪畫或は裝飾模様の色調通りに配列して、漆喰を以て壁面、床等に貼付けて建築物の裝飾とするもので古代より現代に至るまで行はれてゐる。ギリシヤ、伊太利地方は大理石の産地で様々の色のものがあるが、陶器、色ガラスなどにも之に應用されてゐる。モザイクは、頗る落付のある色澤で、殊に材料が石や陶器の事であるから變色の惧はないが、製作には非常な手数のかゝるものである。精巧なものになると、遠方から見ても繪かと思はれる程の細微なものもある。又額縁に嵌めて懸額に造られたものもある事を附加して置く、主として伊太利、ビザンチンあたりのものに多い。  
**ミュージー** Musée (佛) ミュゼウム Museum (英) 美術館、博物館。科學方面をも含むもので、各方面の製作品、参考品を集めて一般の觀覽と研究に資する爲めの建物を云ふ。

**メデイアム** Medium (佛) ミーディアム (英) 仲介物、媒材。油繪具のメデイアムは油であり、テムペラでは特殊な膠、糊等がメデイアムである。總べての物の仲介に立つて其物固有の働きをなさしめるものゝ意である。

**メカニズム** Mechanisme (佛) 機械裝置。繪畫に於てのメカニズムは新しい傾向のものに機械的な表現を以てした畫風があるが、主として此の方面に云はれる言葉である。

**モンマルトン** Montmartre (佛) 巴里市に於ける地名で、モンパルナスと並んで文人、畫家に緣故の深い處であり、美術家として印象派前後の畫家は殆ど此所を中心地とし、従つて其當時の畫材として多く描かれて居る。所謂盛り場であつたと云へやう、

**モンパルナス** Montparnasse (佛) 巴里の地名で、最近畫家の住む者多くモンマルトンと並んで美術家間に有名であり、研究所、畫室等此近邊に多く存在して居る。

**マツス** Masse (佛) 塊り、集團。繪の上で用ひられる此の言葉は、細部に拘泥せず、大まかなまとまりを以て描く事。影のマツス、明るい部分のマツス等と云はれる。



M

**モノクローム** Monochrome (英、佛) 單色。一色で描く繪を指してモノクロームの繪と云ふ。

**モデリング** Modelling (英) 肉附け。元來彫刻の肉附けをすることから出た言葉であるが繪畫でも人體等を描く場合此の語が用ひられる。

**ミニアチュール** Miniature (佛) 小畫。象牙板等の上に特別に繪具を用ひ、人物殊に肖像畫等を繊細に描く一つの畫風があり、その名稱に普通用ひられて居る。其の他印度、ベルシヤ地方の繪畫に特殊なミニアチュールがある。

**明** 暗 立體が光線を受ける時、明部と暗部、及びその中間の部とが必然的に出来る。立體を繪に描く時には、此の明暗を適當に表はさなければ、立體の感じが如實に現れない。明暗を適當に描き表はすとは、調子をつけるといふ事である。色彩ある物體の色は明暗各部に於て色彩の變化が現はれる。故に光線の明暗と同時に色の明暗の研究が必要とされる。尙明暗は畫面に於て對立され、互に密接な關係があり、バランスの考慮も必然的に起つて来る。

**盛り上げ** インバストの項参照。  
**面** 洋畫では屢々面と云ふ言葉が用ひられる。總べての立體は面の組み合わせと見ることが出来る、その實

在的立體感を表現する爲めには面の適當な組み合わせと、それによつて起る明暗の配置をしなければならぬ。即ち面の見方、現はし方は非常に重要なものであると同時に、其の種類、現はれ方は實に複雑なものである。

**丸** 筆 筆と言へば穂先が丸いのが普通で、何の變哲もない筈だが、油繪用筆は平筆が普通に使用されてゐる所から、特に丸筆といふのである。

**マドンナ** Madonna (伊) 聖母マリヤの意で、古來多くの美術家が基督教畫或は彫刻の題材として選ばれ幾多の傑作が遺されてゐる。伊太利文藝復興期頃の美術家でマドンナを題材としなかつた者は殆どなかつたと言ふ事が出来る。

**木** 炭 箸程の太さの木片を炭化して作つたもので木炭畫用として作られて居る。摩擦によつて紙面に粘着力のない炭質が附着するだけであるから、描くにも消すにも他の材料と較べて非常に自由であるそれが爲めデッサンの研究材料として喜ばれ油繪の下繪等にも常に用ひられる。描いた上を指の腹ですれば、適宜な調子をつける事が出来る、消すには食パンの軟かな部分を指先で揉みゴムの様にして拭ふ木炭畫を保存するにはフイキザチフを以て剝落を止

めなければならぬ。

**木炭紙** 特に木炭畫用として製せられた紙で縦二尺一寸、横一尺六寸位の大きさである。木炭の附着をよくする爲めその面は粗で細かい縞目のあるのを通例とするが、厚目のものと薄目のものがある。紙色は白が普通であるが、鼠、藍鼠、白茶、淡紅等の色木炭紙も製せられて居る。地色を利用したデッサンにハイライトを白のクレヨンで描く場合等此の色木炭紙が用ひられる。

**ムーヴマン** Mouvement (佛) ムーヴメント (英) 運動、動勢。繪畫に關するムーヴマンと云ふ言葉には二様の意義がある。一は社會的運動を意味するもの。一は繪に現はれた「動き、動勢」の意である。社會的運動とは『傳統の羈絆を脱して、新なる主義、主張のもとに一派を建てる團體的行動』を指し、印象派の運動、立體派未來派の運動等が其の例である。畫面に現はれた運動とは普通人物畫、動物畫等の運動及び運動によつて起る種々の姿態の變化を描いたものに云ふ。

**模寫** Copy コピー (英) Copie コピー (佛) 一の作品をそれに倣つて畫く事。研究のために畫家が優れた畫の模寫をする場合と、單なる複製の意味

にする模寫の別がある。研究の爲めの模寫は場合によつては、一から十まで原畫を眞似ず、其の要を捉へる事に目的を置く自由模寫がある。

**メチエール** Mether (佛) 此の文字は本來、職業、練熟等の意味を現はす。アール・エ・メチエール (Arts et metiers) と云つた時には「工藝」の事を云ふ。繪畫に於てはこれに精通する事を指し、主として技術上に用ひられる。

**マチエール** Matière (佛) 用材。畫家は用材即ち使用する材料に就いての研究を怠ることは出来ない。例へば描かれた物と材料(繪の具)との關係がうまく行つて初めて畫面的美しさが表現出来るのである此の畫はマチエールが善いとか、悪いとか云ふのは材料使用上の效果に就いて云はるゝのである。

N

**ナイーヴ** Naive (佛、英) 天真、素朴。作品に現はれた氣分、感情が純眞である時に此の言葉が用ひられる。此のナイーヴな氣持は作者の風格から現はれるもので、恰度「小供の無邪氣さ、天真さ」と云ふ様な意味である。

**ニウ** Nu (佛) ニュード Nude (英) 裸體

N M



O N

畫。衣服を纏はざる人體描寫、即ち裸體畫は西洋では紀元前數世期の昔から既に端を發して居ると云へやう。然しこれが發達史上に於て屢々我國と同じ様に風教上の問題を惹起した事があるが、今日では、最早確定的の地歩を占めて居る。形態的美に於ても感覺的美に於ても最も完全なものであり、且つ造型美術の基本をなすものであることに一致して居る。畫家の中には此の裸體畫を専門に描く者さへある。

**ナチュール・モルト** Nature morte (佛) Still life スティール・ライフ (英) 靜物畫。ナチュール・モルトは死したる自然の意。人物畫、動物畫等に對し全く動勢のない物を主題として選ぶ所から出た名稱である。卓上の器物、室の一隅等も靜物畫たり得るが、これの特徴は自由に對照物を置き換へ配布し得る點で構圖の研究に好適なものである。又色彩方面に於ても豊富な色調を得ることが容易であり、然かも他のものに比較して長時間靜かに描寫を續けることが出来るので、種々の方面に好ましい研究材料である。

**ヌーヴオー** Nouveau (佛) 新しい、新規の、轉じて新入生。もと佛語の形容詞で「新しい」といふ意味。英語のニュー(New) 句典語のネオ(Neo)に相當する。二十世紀の初めに、古來の傳統を破つて

新しい美術運動が起された。人呼んでアール・ヌーヴオーと呼んだ。

**ニンフ** Nymph (英) ナンプ (佛) 妖精。希臘神話中に現はる、森、泉、波等に住む美しき妖精で、それが其の居場所によつて特別な名稱がつけられて居る。例へば森に居るものを(オレスティアド) 河、泉のそれを(ナイアド) 等。繪畫では神話を題材としたもの以外に、美しき女性を描いたものに此の題を採つたものが屢々ある。

**ニユアンス** Nuance (佛) 色合ひ。畫面全體を支配する色彩をニユアンスといふ。従つて部分的には用ひない。全體的に統制ある色彩は自然、畫面に或氣分を醸成する。即ち一の情調を構成する處から往々「色合ひ」と云ふ意味でなく、「情調」又は「氣分」「感じ」等の意味にも用ひられてゐるやうである。

**オー・フラマンド** Eau flamande (佛) 油繪洗滌用の水様液である。古い繪の汚れたものを洗ふ爲めに、先づオー・フラマンドを軟い海綿に含ませ畫面一體にこれを塗り、暫時放置してから清水でよくこれを洗ひ落とすと畫面に附着して居た塵や埃等が綺麗に取

P O

れて見違へる様な美しさになる。但しこれは畫面に塗つたニスをも取り去る力があるので、すっかり乾燥した後に更にニスを塗り直はさねばならぬ。唯、これを使用する場合、注意を要することは餘り畫面を激しくこすらない様にするのである。

**オー・フォルト** Eau forte (佛) エツチングの項参照  
**オール・コンクール** Hors concours (佛) 無審査、無鑑査。審査外の意味である。畫家が作品を屢々展覽會に出品し、度々入賞し、彼の技量が世人の認むる所となれば審査員は彼に敬意を表して鑑査を経ずるに出品を受理する事がある。之をオール・コンクールといふ。此の制度は我が國に於ても行はれてゐる。  
**おつゆ式** 油繪具を盛り上げて描く技法に對して、繪具を解油で解いて水彩畫風に塗つて描く方法で畫家仲間の俗語である。おつゆ式の得失については「技法」の項を参照して貰ひ度い。

P

**ポルトレート** Portrait (佛) ポートレート (英) 肖像畫。人物畫であるが單なる畫的效果以外に、描かれたる人物に似て居ることが必要條件とされる。肖像畫の理想としては單に外貌の相似と云ふのでなく、

その人の性格迄も遺憾なく表現されて居る事である。寫眞術の發達しない時代にあつては肖像畫の立場が全く寫眞代用の役目を果して居つた様な有様であるが、繪畫として優れた傑作が此の方面に非常に多く遣されて居ることは驚くべきである。

**バンドル** ヴェルニの項参照、  
**ポアント・セーシエ** Pointe seche (佛) ドライ・ポイント参照。  
**ポッピー・オイル** Poppy oil (英) Huile D'Oelette ユイル・ド・ウイエット (佛) 油繪の解油で、けしの種から搾取した油である。乾きはリンシード油より遅いが油としては無色で純良な性質のもの。描く場合の解油としては其の儘でも亦ベトロール・テレピン等のエツセンスと混ぜても使用される。

**パステル** Pastel (英、佛) 有色の粉末顏料を卷煙草大の棒狀に固めた繪の材料であるが、コンテに比較すれば遙に軟かく脆い。油繪の如く色を調合する事が困難な爲め、個々の色を以て描かねばならぬ。それ故、各色共淡色より濃色に至る階程を豊富に持ち、又種々の混和色が多數出來てゐる。パステルの色數を油繪、水彩繪具等に比較すると遙に多く優に二百を超えるであらう。パステルは色として随分強



烈なものもあるが概して落付ある溫和なものが多い  
バステル畫に此の繪獨特の鮮麗さと、天鷲絨のやう  
な艶を持つ。バステル用紙は粗面で茶鼠系統の色あ  
ひのものが數種ある。描かうとする題材により、或  
は好みにより用紙の色が選ばれる。用紙の色は効果  
の上に可成重要視されて居る。

コンテ、木炭等はフイクサチフ(定着液)で描いた  
ものを定着させる事が出来るが、バステルに定着液  
があつてもそれが出来にくい事だけは保存上の缺點  
であらう。保存しやうと思ふ時にはパラフィン紙を  
間にはさんで重ねて置か、硝子を當て、額縁に入  
れて置かなければならない。佛蘭西十八世紀畫家カ  
ンタン・ド・ラトウールはバステル専門家である。

**プチ・パレー** Petit Palais (佛) 巴里の市立常設美術  
館である。主として近代美術を藏す。

**プロポーション** Proportion (英、佛) 比例、鈞合。  
全體と部分との割合を云ふ。人物畫等には常に用ひ  
られる言葉で、身長に對する頭部の割合、顔面に於  
ける目鼻の位置を決定する場合、脚部と全身の比例  
等に此プロポーションなる語が用ひられる。總べて  
自然界には實に靈妙なるプロポーションが保たれて  
居ることは言ふ迄もない。例へば昆虫には昆虫の體

の各部に亘る鈞合があり、人間に於ても子供は子供  
の鈞合、大人には大人の鈞合を持ち、人種的にも種  
々の鈞合の變化がある譯である。伊太利文藝復興期  
の美術家は人體のプロポーションを「八頭長」即ち  
頭部の長さの八倍の身長としてこれを理想的美的典  
型としたと傳へられる。

**パースペクティヴ** Perspective (英) ヘルスペクティ  
ーヴ(佛) 遠近法。遠近法の項参照。

**ポーズ** Pose (佛、英) 姿勢。畫家、彫刻家がモ  
デルをして姿勢を探らすことを「ポーズ」と云ふ。  
モデルの姿勢を種々工風し、さめることを「ポーズ  
をつける」など云ひ、又此のモデルは「ポーズ」  
をうまくやるとか、「醜いポーズの繪だ」等と云ふ。

**ペン** Pen and ink drawing ペン・アンド・イン  
ク・ドローイング(英) ペンで描く技法をペン畫と  
云ふ。普通のペン、萬年筆を用ふる場合と、鷲ペン  
畫のペン等が一種の面白味を出す爲めに好んで用ひ  
られる場合とがある。又或る場合にペン畫の筆觸の  
變化を出す爲め毛筆を以て補ひ、にじみを出したり  
ぼかしを出したりすることもある。これをウオッシュ  
ユ Wash すると云ふ。

**パテ** Pate (佛) 繪具の厚く層をなしたものを

パテと云ふ。「この畫のパテが良い」等と云ふ  
時には畫面に置かれた繪具の量が豊富で、よい効果  
を擧げて居る意味。

**ポエティカル** Poetical (英) ポエティック Poétique  
(佛) 詩的の。繪の上では「詩味の豊かなる」とか「情  
味のあふれる様な」とか云ふ意味に使はれる。ミレー  
の繪はポエティカルな氣分を感じさせる等と云ふ。

**ポスト・インプレッショニスム** 後期印象主義の項参照  
**ポジション** Position (英、佛) 位置、姿勢。モデル  
の位置、姿勢等の場合に使ふこと、畫家の地位等  
の意味にも用ふ。

**バンドル** ヴェルニの項参照。

**パネル** Pannel (英) Panneau パノー(佛) 繪  
を描く爲めの板をパネルと云ふ。建築方面では周圍  
が枠で飾られた平らな面、例へば仕切られた壁の凹  
んだ面をパネルと云ふ。我が國の鏡板などもパネル  
の一種である。

**プリ・シ・ローム** Prix de Rome (佛) 羅馬賞。佛國  
では政府が有望な美術家を獎勵する爲め、競技を行  
ひ、優秀な成績のものを伊太利ローマに留學させ、  
古典美術を研究させる制度がある。これをプリ・ド・  
ロームと云ふ。美術家の最高名譽賞とされて居る。

**ペインティング・ナイフ** Painting-knife (英) 普通小  
刀様のものと、壁塗りに使ふコテの様なものとの  
ある。何れも其の先は薄い鋼鐵で可成り自由に油繪  
具を畫面につけることが出来る。此のペインティン  
グ・ナイフを用ひて描いた畫面は普通の毛筆を用ひ  
た畫面と比較して繪具の光澤が出、一種の力強さを  
感じさせるものがある。

**パレット** Palette (英、佛) 調色板。畫を描く時に  
繪具をチューブからしぼり出して配列し、又其上で  
所要の色調を煉り合はせる爲めの板である。形の四  
角のもの、隋圓形のもの、大きささまあるが一方  
の邊に近い所に拇指を入れる穴があり、左手でこれ  
を支へて描くに便利にしてある。西洋では畫家がパ  
レットを譲ると云ふ事があるが、師匠の使つたパレ  
ットを其の愛弟子に譲り、繪具の秘傳を教へること  
である。

**パレット・ナイフ** Palette knife (英) 油繪のパレッ  
トの上の繪具を煉り或はこれをけすり取る爲めに使  
ふ薄い鋼鐵製の小刀様のもの。しなやかな弾力が必  
要で、時にはペインティング・ナイフの代用として  
これで描くこともある。此の外に畫面の繪具を削り  
ならす爲めのスクレーパーも此の中に含まれるべ



R

きものがある。

**プロフィール** Profil (佛) 横顔。古來より畫家が人物を描く場合、實にあらゆる方面、種々雑多な姿勢を採つてこれを寫し出して居るが、特に顔面を眞横の向きから見つて描いたものをプロフィールと云ふ。此のプロフィールを描いた繪は東洋、西洋を問はず無數にあるが、伊太利ルネッサンス時代に空を背景として描かれた美しいプロフィールの特殊な繪が可成り見受けられる。

**ピエタ** Pita (伊) 悲哀の意。聖母が十字架より降されたる基督を膝の上に抱き悲しめる様を題材とした繪或は彫刻をピエタと名づけられてゐる。宗教畫として基督の生涯を描いた繪は無數にある。がピエタは基督の生涯の最後の場面にして之に聖母の無量の悲しみを添えたる此の題材は宗教畫中最も崇高にして、悲哀に満てるものにして、古來幾多の美術家の取材となつた。

R

**量** Volume ヴオリューム (英、佛) 物體が存在すると云ふ事は空間的に或る部分を其の物が占領するのである。而して實在には必ず量が伴ふのが當然である。

る。繪畫上に量と云ふ言葉の用ひられるのは以上の實在感と相待つて其の物の持つ重さ、大きさと立體感を合はせた事である。此の繪は量の感じが出て居るとか、居ないとか等と云はれる。

**レプロダクション** 複製の項参照。

**ロマンティズム** Romanticism (英) Romanticism ロマンティズム (佛) ローマン主義。ヴィクトル・ユーゴー等によつて稱へられた文藝の運動と並んで千八百三十年にフランスに興つた藝術上の運動である。從來の古典的傳統からの解放が其の目的で、其の作品は極めて情熱的であり、活動、色彩、詩的情操の表現に著しくすぐれて居る。其の先驅者はグロがなしたと言はれて居る。

**裸體** 畫 ニューの項参照。

**裸** 婦 近來、裸體の婦人を描いた物に裸婦と云ふ畫題が屢々用ひられる。「横臥裸婦」「座裸婦」等の如き語である。

**ロココ** Rococo (佛) ロココの様式はフランスの第十七世紀に行はれた裝飾建築其他に表はれた藝術様式で、纖弱で、形容澤山な内容的な力の乏しい物である。そして徒らに無意味な飾りを多く用ひた爲め廢類的な氣分を感じさせる。

**レタッチ** Retouch (英) Retoucher ルトウシエー (佛) 補筆。一度描き上げた畫面に再び筆を加へること。(ヴェルニの項参照)

**ルネッサンス** Renaissance (英) 文藝復興期。伊太利に於ける十五六世紀の時代を指してルネッサンスと云ふ。此の時代に古典藝術が復興し、文藝美術が隆盛を極めた。かの著名なラファエル、ミケランジェロ、レオナルド・ダ・ヴィンチ等は皆此の時代に於ける代表的藝術家である。

**ラファエル前派** Pre-Raphaelism プレ・ラフェリチズム (英) 英國に於ける千八百四十七年頃に起つた運動で其の主張は、伊太利のラファエル以前の畫家の特徴たる眞面目と細心寫實的精緻を學んで之を近代繪畫の理想とし様とした。

**輪廊** Out line (英) アウト・ラインの項参照。  
**レリーフ** Relief (英) ルリエフ (佛) 薄肉彫刻。

平面に半肉、或は薄肉に彫り起したる一方的の彫刻をいふ。繪畫に於ては、明暗、或は色彩的對比の結果特殊の光彩を放つレリーフ的效果の文字を使ふ事がある。又中心物を躍動せしむる爲めに、他を犠牲として殊更に調子を落す時に、中心物はレリーフ的に浮き上つて見える。

**リアリズム** Realism (佛) リアリズム (英) 寫實主義。あるが儘の自然を、あるが儘に寫し出さうとするのが寫實主義の行く道である。寫實派の畫家は卒直なる自然の禮讚者である。佛蘭西近代の畫家としてはクールベーが此の派の代表者として認められて居る。畫家の唯一の手本、唯一の畫題は自然の他にない。これを如實に寫すことが使命だとの主張をなした。此の寫實主義は實に當時の畫界に大いなる刺戟を與へた。ロマンチック主義の主張する感情もクラシック主義の唱ふる形線の美も全く排して、自然其儘の、優美も缺點も取捨せず唯其のまゝを描くと云ふ考へであつた。クールベーは斯様な説を徒らに唱へた空論家ではなく實際の力を以てこれを遂行した畫家である。現代畫界に於ても彼の主張と作品の影響は實に大きな名残りを留めて居ると云へやう。

**立體感** 繪畫の生命はイデー(精神)にあるが、イデーの表現を授けるものは構圖、色彩、調子及寫形の効果を俟たなければならぬ。寫形は言ふ迄もなく物の形の表現である。洋畫に於ては形の描寫と共に實在的な感じの表現に重きを置く。即ち表面上に現はれる立體感を指すのである。光線によつて立



體に明部と暗部とが生ずる事は云ふ迄もない。更に明部、暗部中にも種々な段階が見られる。又暗部にはその上他の反射の影響を受ける。これ等、立體上に生ずる明暗の調子を適當に配置する時は畫かれたるものに立體感を現出するのである。これを押し廣めて畫面の各部の明暗、遠近の關係が完全する時は畫面全部が立體的になり、奥行が生ずる。近代に於ける立體派の如きは特に其の主義を強調し對照物を極端な面の構成によつて表現する事を試みて居る。

**リズム** Rhythm (英) リトウム (佛) 旋律、律動。リズムは人の情緒に訴へる運動の秩序ある反復循環、即ちこれ等の節奏を云ふ。音樂に於て拍子は脈搏である。如何なる美音も拍子なしには音樂として成り立たない。拍子は實に音樂の生命である。そこに音の高低もあり、反復、循環等が現れて一つの曲が成立するのであるが斯様な音の流れは總べてリズムによつて支配される。舞踊の妙味も矢張り此のリズムミカルな美である。繪畫に於ても線、形、色調等の秩序ある、適當な配置は此の旋律的效果を以て觀者に働きかけるものが頗る多い。ポアンテイリズム即ち點描派の畫面等は明かにこれを示して居るのであらう。線の抑揚、色の強弱等、又自然界の諸物例

へば濱邊に打ち寄せる波の動き、風にゆらぐ木葉の如きあらゆる物に此の節奏が見出される。殊に裝飾圖案方面にはこれが最も、重大な役目をなし、形體上の漸大、漸小、分量の漸増、漸減、色の漸強、漸弱等リズムミカルな變化を應用する所は、實に基本的な要素であるといはねばならぬ。

S

**サロン** Salon (佛) 佛國巴里で開かれる現代美術展覽會を云ふので、今日では次の様に幾つものサロンがある。「ソシエテ・デ・ザルチスト・フランセ」のサロン、「ソシエテ・ナシヨナル・デ・ポーザール」のサロン、「サロン・ドートトヌ」のサロン、「デ・ザンデ・バンダン」のサロン、「デ・テュイルリー」等であつてそれ等、傾向流派を異にして居る。

**スケッチ判** 油繪のスケッチ判と云ふのは普通四號の大きさを指して云ふ(曲尺一尺一寸×八寸)此の大きさの繪具箱が多く用ひられ、スケッチ板を使用して野外寫生に手頃であることからこう云はれるやうになつた。

**スケッチ板** 油繪用スケッチ板は木の質のよい、狂ひの出ないものを選ぶ事が肝要である。普通「かつら」

「朴」(ボブラ)「ペ」にや板」等が用ひられ、板の生地を出したものと、塗料を施したもの、別がある。

**セーブル・ヘーヤ** Sable-hair (英) 黒貂の毛。油繪の筆に黒貂の毛を用ひたものがある。普通白い毛(豚の毛)のものよりしなやかで繪具を滑かに塗ることが出来る。

**ザムプリフイヤー** Simplifier (佛) Simplify シムプリフアイ (英) 單純化する。複雑なものを簡單に云ひ表はす意味で、繪畫には常に單純化が行はれる。或る感じ、特徴を強く表現する爲めには適當なサムプリフイヤーが行はれなければならぬ事になる。

**シムボル** Symbol (英) Symbole サルボル (佛) 象徴、表象。或る事柄、事物を表はすに他の物を借りて來ること。例へば十字架は基督のシムボル、白色は純潔のシムボル、櫛は力のシムボル、獅子は勇氣のシムボル等の如し。

**シムボリズム** Symbolism (英) サムボリズム (佛) 象徴主義。象徴をかりて藝術の表現をなす主義をシムボリズムと云ふ。之は遠くエジプトの古藝術にもあつた。初期のキリスト教藝術にも屢々之が行はれ又神話を圖題とした物の中にも之を見る。近代の歐洲作家のうちにシムボリズムの例をあげればフラン

スのギユスタープ・モロー、オディロン・ルドン、ベルギーのフェリシアン・ロツプ、英國のブレラフェリチズム(ラファエル前派)の畫家等である。

**裝飾畫** デコラチーフの項参照。  
**シッター** Sitter (英) すわりて、坐者。特に肖像の場合にシッターと云ふ。即ち畫家のモデルとして描かれる時に坐る人。

**三脚** 畫家仲間に於て寫生用に携帶する疊み込み自由な腰掛であり、野外寫生に必要なものである。  
**素質** Qualite カリテ (佛) Quality クオリテ (英) 畫家などで「素質がよい」とか又は「素質が悪い」と云ふが、其人が畫家としての才能を持つ持たぬと云ふ意味で、其の道に延びて行く要素であり、努力すれば一層の成績をあげる事が出来る

**色盲** 眼の感覺の一種の缺陷である。之には色々の種類、程度があるが、赤と緑の區別のつかぬもの、總てのものが鼠色一色に感ずる様なのは最も激しいものである。よく話しに苺を摘みに行き他の人が澤山摘むのに獨り少しも實が見當らぬ爲めに色盲である事を發見した例もある。

**サンギーヌ** Sanguine (佛) 血色と云ふ意味であるが畫の材料としてコンテの類に丁度俗赭色の物をサ



S

ンギムと云ふ。油繪具にも此名前がとられて居る  
黒と違ひ素描に用ひて特種な味を現す。

**スカイ・ライト Sky-light (英)** 天窗光線。畫家、彫  
刻家、寫眞などのアトリエには天井に窓を作りこれ  
から明り取りをなしたものがあつた。これをスカイ・  
ライトと云ふ。而して此の窓の下に幕をつけて左右  
に動かし光線を色々に加減出来る様にして使用する  
普通の横光線より明るさが充分に採れる。

**ステュディオ Studio (英)** アトリエの項参照。

**シュール・レアリスム Sur Realisme (佛)** 超現實主  
義。最近に於ける超現實派は文字通り一切の現實か  
ら逃避し理智の世界を超越した精神の夢幻状態を表  
現しやうと云ふ主義である。本來此の運動は文學上  
の主張から端を發し、繪畫運動となつたのは稍々後  
のことである。此の派に屬する畫家は可なり世界に  
廣く、日本にも此の傾向の人がある。

**シツカチラ** ドライイング・オイルの項参照。

**セリー Serie (佛) Series シリーズ (英)** 繪の方  
でセリーと云ふ言葉は連続した何枚かの作品(續き  
繪)を指して云ふ。挿畫等の集められたものもセリ  
ーであり、ゴヤの「闘牛」の繪のセリー等その一例  
である。又叢書の意味で畫集、畫家傳等の書物の同

一體裁で數部が集められたものもセリーと云ふ。

**挿畫** イラストレーションの項参照。

**主題 Subject** サブジェクト (英) 畫題に描か  
れる主要なる事物、事柄、感じ等で、畫題を暗示す  
るものである。近來テーマなる語が往々用ひられる  
が意味は同じである。

**肖像畫** ポルトレの項参照。

**小品** 文字の示す如く小さい作品であるが何號  
以下を小品といふ如き規定はない。概して油繪の小  
品といふ場合は十二號位を最高として、スケッチ板  
乃至ハンド・スケッチ等をいつて居る。然し小さい  
のが本來の姿である。ミニチュールは小品には違  
ひないが普通いふ小品ではない、小品のうちには小  
品の爲めに小品もあるが、研究の爲め若しくは畫稿  
として大なる製作の準備として描いたものもある。小  
品の中には又大作に求められない貴重なる珠玉のや  
うな作品が多くある。内容の充實した小品は徒に尅  
大なるものに優り、大なるものに匹敵する力ある作  
品が屢々ある。

**試作** エスキスの項参照。

**サイン Sign (英)** 繪畫其の他のものに作者が署  
名をし、落款を入れることをサインすると云ふ。サ

インの意味はシグネチャーと同じであるが普通  
動詞として「サインする」と使はれることが多い。

**サムホール型 Thumb hold (英)** スケッチ板の一種  
の大きさ。サムホールとは一種のスケッチ板で曲尺  
七寸五分に五寸二分の小型のもので、箱の底部に左  
の拇指が入る穴が開けてある。此の穴に左の拇指を  
挿入して箱を支持し、蓋の裏面にスケッチ板を嵌め  
て寫生する様な構造のスケッチ箱で之に、使用する  
スケッチ板をサムホール型といふ様になつたのであ  
る。

**石膏像** 石膏を以て作られた彫刻である。永久に  
保有さるべき彫刻は銅、或は大理石に彫刻して置か  
なければならぬ。然し此等の名作が出来前には  
一旦石膏像に作られる。石膏像試作に用ひられるが  
一方既製の作品を複寫する爲めに非常に便利な材料  
である。古今の作品から一の石膏型(雌型)を取つ  
て置けば、之によつて全く同じものが多く複寫され  
る。而も目方は軽く、價格も比較的低廉である。石  
膏像によつて吾々は數千里を距つる希臘の傑作も、  
ミケランジェロ、ロダン等の名作も觀賞する事が出  
来る。又描寫(素描)の練習用として石膏像が用ひ  
られる。人體の描寫練習にモデルが動き易く、姿勢

が變り易く、又時として皮膚の色、調子が初學者に  
は識別上困難な事があるが、石膏像にありては此等  
の困難は全くない。殊に古今の傑作は不知不識の間  
に形態美の妙處を會得させるに力ある事は疑ひを要  
さない。初學者はこれによつて形と調子の階梯を觀  
取するの眼を養ひ、寫形と調子の技術を充分に習得  
する事が出来る。

**宗教畫** 宗教上の事蹟を題材とした繪畫を宗教畫  
と稱して居る。フレスコ等の項で述べた如く、人文、  
美術の發達は洋の東西を論ぜず宗教に負ふ所大なる  
ものがあつた。印刷術の發明される迄は文字を解す  
る者は稀であつた爲め、繪畫は書籍の役割を演じた。  
殊に宗教の教義の説明の爲めに繪畫は重要缺くべか  
らざるものであつた。故に繪畫もその必要に迫られ  
て發達を促された。東洋に於て印度、支那、日本に  
於ける佛畫、西洋に於ける教會の壁畫等に今尙その  
發達の跡を涉獵する事が出来る。教會堂の壁畫、祭  
壇畫(木に畫いたもの)等に於て教義の總ゆる題材  
を見る事が出来る。殊に基督、聖母、天使、聖者等  
の各時代に互り表現様式の變遷する跡を見るのは實  
に興味ある事である。宗教畫は人智を超えた超自然  
的の事物を表現せむとする所から、殊に神の威嚴、威

S



光を表す爲めに金色を多く用ひられる事、東西軌を一にして居る事も面白い。中世紀以前の畫家は畫家と云ふよりも寧ろ工人であつた。彼等は幼少の時より師匠の教導のもとに大工もし、額縁も彫り、金箔もおき、塗り物もした。故に古代の宗教畫は此等の技術が渾然として光輝を放つて居る。その技巧は今日全く想像を許さないものがある。宗教畫は上述の如く、元來宗教の説明から發し、同時に寺院の裝飾を兼ねたものであるから、一般繪畫と同列に觀賞すべきものではない。之を眞に觀賞する爲めには先づその教義を知らなければ幾多の矛盾を發見するであらう。たゞ誰しも觀取出來る事は莊嚴美と眞摯さだけであらう。

石

油 精製した石油のエツセンスは油繪の解油として用ひられるが、普通の石油は直接油繪に使用するものではない。汚れた筆を洗ふのに石油を使用する事もある。勿論筆洗壺に入れて使用するのであるが、石油で洗ふのは毛を固くする嫌ひがあつて自然いたみを早めるから、畫筆は成るべく石鹼で洗ふ事にしたい。

スタイル Style (佛) スタイル (英) 畫風、様式。或る時代、或は畫家畫派の作風を指して云ふので、

ロココ風、セザンヌ風等と云ふ場合にスタイルの言葉が用ひられる。

スケッチ Sketch (英) Croquis クロッキー (佛) 即寫、略畫。畫家が己の繪畫的思想の記録として、自然から直接に或は記憶を簡單にノートする。これをスケッチと云ふ。スケッチは本來完成した繪と比較して粗奔なものであるが一面形式に拘泥しない自由な感情の發露であるため其所に云ひ知れぬ面白味が多い、然かも畫家が製作に對する第一歩のものであり、主題の選定等多くこれが素になる爲め、畫家に對するスケッチは實に大なる價値を持つものである。これに使用される材料は單色の場合、鉛筆、コンテ、ペン等が用ひられ、色彩方面では油繪具、水彩、其の他の材料が用ひられる。

スケッチブック Sketch-book (英) 寫生帖。畫家が常に懷にして、折にふれスケッチをする爲めのノート・ブックである。普通小形のものでポケットに入れられる程度が多く用ひられ。白紙又は色のついた紙等を綴じたものもある。學校、研究所等で人體のスケッチに用ひられる場合には特に大型のものが便利な様である。

色彩感 宇宙の物で色彩を持つて居ないものはな

い。宇宙は實に色彩のオーケストラである。たゞ此を色彩として感ずるか否かである。畫家は常人に優れて色彩に鋭敏な感覺を惠まれて居る。元來繪畫は畫家の感覺の發表、解釋の表現であるが、感覺は人に依つて非常な相違があり、解釋は理解、修養、趣味によつて各異なる譯である。或る者は形態に魅惑を感ずれば、他の者は光に陶醉する。又或る者は色彩に全精神を投入する。斯くして畫面に與へられる色彩は甲乙各々相違する結果になる。畫面に豊富な色彩を施してありながら、格別色彩的感興を與へぬ繪もあれば、殆ど色彩らしい色彩は取立て、眼につかぬ繪でも色彩的効果を充分果して居る繪もある。要するに色彩の美妙なる感覺の表現は繪具の配列にあらずして解釋にある事を知らねばならない。

彫刻は形體的美をのみ求めるもの、様に思はれるが彫刻も形體美の他に色彩迄追求してゐるものもある。「奇論めいて聞へやうが、大彫刻家は優れたる畫家として、又色彩家としても偉大なのである」と彼のロダンは希臘彫刻の肉の起伏が光線と囁やく美妙なる色彩感に對して嘆聲を洩らしてゐる。

スタデー Study (英) Etude エチュード (佛) 習作。習作の項参照。

寫實 見た儘の自然を見た儘の姿に再現する畫を寫實といふ。寫實は見た儘の姿であるから實在感の表現と結びつく事は云ふ迄もない。

素描 デッサン。デッサンの項参照。

シニアチュール Signature (佛) シグネーチュール (英) 花押、署名。繪が完成した時、畫家は己の署名をする。日本畫では之を花押といつて獨特の書き振りをするもので、此の花押によつて繪の眞偽を判別する證據たるものが往々ある。洋畫の署名は即ちシニアチュールであつて随分凝つたものがある事は日本畫と同様である。が日本畫の花押はその位置を非常に吟味して寧ろ繪の一部と見做して居るといふ事が出来るが、洋畫に於けるシニアチュールはそれ程でないものもあり、單に作者の署名に過ぎない場合がある。日本畫の花押には落款印がつきものであるが、油繪には餘り用ひない、寧ろ不可能であらう。一體畫家のシニアチュールは非常に興味のあるもので、作者の風格、時代等を識別する助けにもなるので東西共に重きを置いて居る。一體洋畫のシニアチュールは其の場所に規定がないが、唯畫面の大事な部分にかゝらぬ様、又繪の氣分を損はない様に入れることが肝要なことは云ふ迄もない。單なる署名に



S

過ぎないとは云つても相當な畫家はこれを書き入れる時に随分考慮をなすものである。

**シルウエツト** Silhouette (佛) 影繪。物の説明の一切を抜きにしたアウトラインのみで表はす一色畫である。「シルウエツト」(影繪)の起りは佛國十八世紀後期の藏相シルウエツト氏が極端な勤儉節約令を發したため、當時隆盛を極めて居たロココの非常な複雑な繪畫彫刻から脱して遽に單純化された。又色彩としても濃厚な色彩を捨て、最も簡素な白と黒を選んだ影畫が生れるに至つた。シルウエツトは元來白と墨の繪であるが墨の代りに他の色を以てするもやはりシルウエツトである。要するにアウトラインのみを以て説明する平面的な影畫の事である。普通の繪畫によくシルウエツトの調子等と云ふ事があるがそれは強い逆光線を受けた場合等に影の部分が殆ど一色により周圍に平面的に抜け出した様なものを指して云ふ。又霧の深い町などの空に建物の輪廓丈けが現はれて一體に影繪の様な調子によつた場合を指して云ふのである。

**水彩畫** Water colour ウォーター・カラー (英) Aquarelle アクワレル (佛) 油繪が油を媒材として描かれるに對し、水彩畫は一切油を含まず、水で描

ける顔料である。水彩畫の用紙は木炭紙日本紙等にも描けるが、水彩畫用紙、ワットマン、OW、ダヴィッド・コックス紙等が最も適して居る。其の他特に水彩畫用畫布もある。水彩畫は濃厚、強烈な繪も描き得るが、一般に淡白な、デリケートな繪に適して居る様である。歐洲でも佛蘭西あたりには水彩の専門畫家は比較的少いが英國は古くから此の方面に非常に重きを置き、優れた作家も非常に多く、此の有力な團體が作られて居る。保存の點では他の油繪パステル等より手輕ではあるが變色、褪色の早い點が缺點である。

**靜物畫** ナチュール・モルトの項参照。  
**速寫** クロツキの項参照。

**シムメトリー** Symmetry (英) 均齊、左右同形對峙。上下或は左右が全く同形のもものが相向つて置かれたものをシムメトリーといふ。直立した人體は體の中心の線を境として左右全くシムメトリーである。幾直其他の器物等にシムメトリーなる形體のものも右に幾らでも求められる。シムメトリーの形態のもものはそれ自身は完全な美である。が變化に乏しい恨がある。故に繪畫に於ては屢々シムメトリーを避け己むを得ざる場合は一部分を他のものによつて蔽ひ

變化を與へる様にする事がある。尤も殊更にシムメトリーの構圖を取る事もないではないが、工藝方面裝飾圖案等に於てはシムメトリーは非常に効果あり寧ろ必然的である場合が甚だ多い。

**線** 日本畫に於ては、非常に重大な使命を持つて居るが洋畫に於ては、線を線として用ひる事、即ち物のアウトラインとして用ひられるのは特殊の畫風に限られて居る。洋畫に於て云々される線とは多くの物の輪廓の示す線と云ふ場合と、長さを持つ物自體が造る線を指す場合がある。尙其他物と物との連鎖が

與ふる線狀意識を指す場合もあるのである。此等の意を有する線は構圖上の基本的要件である事が多い殊に最後に擧げた物と物との連鎖的の線は群像を構成する時等に最も考慮される事である。

**サイズ** Size (英) 大きさ。と云ふ字義であり、畫のサイズと云ふ場合には畫面の大きさになる。「自然大」即ナチュラル・サイズ (Natural Size) と云ふ場合には自然の物或は人物等の「等身大」をさして云ふ。畫布のサイズは號數によつて表はされて居る。左に日本と佛蘭西のカムダスの號數の表を示す。

日本の號數寸法 (尺)

NO號	寸法人體 (F)		風景 (P)		海面 (M)	
	尺	尺	尺	尺	尺	尺
3	.90	.70	.90	.13	.90	.53
4	1.10	.80	1.10	.70	1.10	.63
6	1.35	1.05	1.35	.90	1.35	.80
8	1.50	1.25	1.50	1.10	1.50	.90
10	1.75	1.50	1.75	1.35	1.75	1.10
12	2.00	1.65	2.00	1.50	2.00	1.35
15	2.15	1.75	2.15	1.65	2.15	1.50
20	2.40	2.00	2.40	1.75	2.40	1.65
25	2.65	2.15	2.65	2.00	2.65	1.75
30	3.00	2.40	3.00	2.15	3.00	2.00
40	3.30	2.65	3.30	2.40	3.30	2.15
50	3.85	3.00	3.85	2.65	3.85	2.40
60	4.30	3.20	4.30	2.90	4.30	2.65
80	4.80	3.70	4.80	3.20	4.80	2.95
100	5.35	4.30	5.35	2.70	5.35	3.20
120	6.40	4.30	6.40	3.70	6.40	3.20



フランスの號數寸法 (米)

NO	FIGURE	PAYSAGE	MARINE
1	<sup>m</sup> .22 × <sup>m</sup> .16	<sup>m</sup> .22 × <sup>m</sup> .14	<sup>m</sup> .22 × <sup>m</sup> .12
2	.24 × .19	.24 × .16	.24 × .14
3	.27 × .22	.27 × .19	.27 × .16
4	.33 × .24	.33 × .22	.33 × .19
5	.35 × .27	.35 × .24	.35 × .22
6	.41 × .33	.41 × .27	.41 × .24
8	.46 × .38	.46 × .33	.46 × .27
10	.55 × .46	.55 × .38	.55 × .33
12	.61 × .50	.61 × .46	.61 × .38
15	.65 × .54	.65 × .50	.65 × .46
20	.73 × .60	.73 × .54	.73 × .50
25	.81 × .65	.81 × .60	.81 × .54
30	.92 × .73	.92 × .65	.92 × .60
40	1.00 × .81	1.00 × .73	1.00 × .65
50	1.16 × .89	1.16 × .81	1.16 × .73
60	1.30 × .97	1.30 × .89	1.30 × .81
80	1.46 × 1.14	1.46 × .97	1.46 × .89
100	1.62 × 1.30	1.62 × 1.14	1.62 × .97
120	1.95 × 1.30	1.95 × 1.14	1.95 × .97

最後の晩餐

The Last Supper ゼ・ラスト・サツパー

(英) 基督が苦難を受ける前夜使徒達と晩餐を共にして居る所で宗教畫題として屢々描かれて居る。レオナルド・ダ・ヴィンチのミラノ、サンタ・マリヤ・デル・グラーチエ寺にある壁畫は極めて名高い。

最後の審判

The Last Judgment ヨ・ラスト・ジャジ

メント (英) 宗教畫題として屢々描かれて居る。基督が此の世を審判する所である。シスチン禮拜堂にあるミケランジェロの作は極めて名高い。

サチール

Savre (英、佛) 希臘神話の森林原野の

T

テレバンティーン

Terebentine (佛) テレピン油。

樹脂質の油で精製したもの即ちエツサンス・ド・テレバンティーンに油繪の溶き油として單獨にも、又他にボツビー、リンシード等と混しても使用される。艶の無い畫面、特にアプソルバン・カンヴァスを使ふ

場合等に他の油と混ぜずにこれ丈を用ひる。  
ターペンタイン Turpentine (英) テレバンティーン  
の項参照。

大 作

比較上の問題で何號以上を大作といひ得るかは決定する事は出来ないが先づ五十號以上のものは大作といふ事が出来やう。小品と違つての六ヶ敷さがあるから大作を製作するだけの準備が必要とされる。大作をなす前には先づ全體を或る適宜の大きさに縮小した畫面を描いて見る事も肝要である。特に群像の構圖等では個々別々に充分なる習作を遂げて之に方眼の罫を引き、倍率をきめて大作のキャンパス上にこれを引き延して描く事もある。小さなものと違つて大作となると一部の調子の破綻が全體に及ぼす影響は大きいから、製作中は相當の距離を距て屢々全體に亘つての調子を見る事が肝心である。

チューブ

Tube (英、佛) 鉛管。繪具は普通携帯、

保存に便宜な鉛管に入れてある。鉛管は油繪のみに限らず水彩、テムペラ等にも使用され、携帯保存のみならず乾燥を防ぐ爲めであるから、鉛管の蓋は使用後必ず閉めて置かねばならぬ。普通チューブの號數は小なるものから大なるものに數を増し、號數で決められた最大のもの十號チューブで、それ以上

は特別に半ポンド、一ポンド等の内容を示して居る英國製のものにはスモール・ステュディオ・チューブステュディオ・チューブ等の名稱がある。一體に油繪の鉛管入りは稽古用、裝飾用等の質の低下したものが概して大きなものを用ひて居る。

テクスチュア

Texture (英) 地質。テクスチュア

は質の意味で、衣服、布片などの表面の特質を言ふのである。種々な物體にはそれ／＼テクスチュアの感じがあるわけである。畫面に於ては繪具の質と云ふ事にも用ひられる。

手古摺る、手古すり

一枚の畫を描く場合、思ふ通りに進行せず、ヘラで削つたりこねまわしたりなかに巧く行かない時「手古摺る」と云ふ。

點 描

ポアンテイリズムの項参照。

單純 化

サムプリフイエーの項参照。

溶き油 油繪を描く時に繪具の堅さをゆるめる爲め種々の油が使用される。即ちリンシード油、ボツビー油、テレバンティーン等の如きもので、これ等が即ち溶き油である。

ト アル

Toile (佛) カンヴァスの項参照。

テ ー マ

Tema (伊) Subject サブジエクト (英) 主題の項参照。



U T

**展覧會** 作品を多数陳列して一定の期日間公衆或は招待者の鑑賞に供する催しである。多数の作者の作品を陳列する展覧會と、個人或は團體の會員の作品のみを陳列するものとある。我國官設の展覧會は帝國美術院展覧會(帝展)あり、何等の系統なく一般の作品に應じて居る。出品者は規定の鑑査を経て出品する事が出来る。團體主催のものには二科會春陽會、國畫會、太平洋畫會、等の展覧會はそれぞれ各その制度を設けて一般の出品に應じてゐる。

**透明色** 油繪具の性質上透明なるものと、不透明なるものがある。透明とは右の如く質の上から透明なるものを指すもので、普通使用するものゝうち次ぎのものは之に屬するものである。ガランセ・フオンセ(濃紅) ガランセ・ローズ(淡紅) ステイル・ド・グランデイタリー(琥珀色) (イタリアンピンク) ビテニウム(やに色) 等。尤も此の他の色もグラツシに使用する場合の如く、油の分量を多くして薄めると、殆ど透明色と區別し難いものは澤山ある。(不透明色の項参照。)

**對 比** コントラストの項参照。

**テクニク** Technique (佛) 技巧。技巧の項参照。

**テムペラ** Tempera (英) タンペラ (佛) 油繪、水

彩畫等と同じく西洋畫法の一つで、顔料を膠、糊の類で煉り合はせた、概して不透明な水性繪具であるテムペラは此の繪具の爲めに特に作られたミヂアム(媒材)を以て描く場合と、單なる水で描く場合がある。此の畫法を以てした畫面は恰度油繪と、水彩畫の中間に位する結果を得る。テムペラは紙にも、板にも、布にも描く事を得る。

U

**腕** Port-main ボルト・マン (佛) 畫を描く場合ごく細部を表す時に畫架に立てかけたまゝ手を宙に浮かして畫く事はふるへてむづかしい。其の爲めに二の腕をさへて畫きやすくする爲めの細い木製の棒で長さ三尺位の物である。普通其の棒の先に玉をつけてある。

**ウイエット** Oilette ボツビー・オイル参照。

V

**ヴァイナス** Venus (英) Venus ヴェニユス(佛)希臘神話に於ける愛と美の女神。アフロジットと同じ。クロノスに殺されたウラムスの血が海上に滴り、其所に泡が集り其の中から生れ出たと云はれて居る。「ヴァイナスの誕生」と云ふ畫題を展々見るがこれは其の意を表はしたものである。ポツチエリーは此の題で傑作を遺して居る。彫刻では巴里ルーブルにある「ミロのヴァイナス」は最も名高い。

**ヴェルニ** Vernis (佛) Vernish ヴーニッシュ(英) 油繪の艶を出し、保存を安全にする爲めに畫面にニス塗る事が屢々ある。此のニスは非常に種類が多く、濃厚なもの、稀薄なもの、無色なもの、淡い色のついたもの等があるが充分質の良いものを選ばなければならぬ。ニスの爲めに往々畫がひどく損はれる場合がある。一體に濃厚なものを一體に澤山塗ることは避けなければいけない。普通使用されるものは二三を擧げて其の使用上の注意を記さう。

**ヴェルニ・ア・タプロ** Vernis a Tableau (佛) 透明な、極く淡い黄ばみがあるが殆ど無色で畫面にこれを施すには描いた繪が數ヶ月を経て繪具が充分に乾

燥してからでないと龜裂を生じたり、下の繪具を解かしたりすることがある。成るべく巾廣のニス刷毛にこれを含ませ畫面に萬遍なく、むらの出ない様に塗る。但しどぼく流れる様に塗る事は禁物である。**マステイク・ブニッシュ** Mastic Varnish (英) **コパル・ブニッシュ** Copal Varnish (英) 英國製のものに以上の様な原料を名としたニスがある。マステイク・ブニッシュは佛國製のヴェルニ・ア・タプロと殆ど同様であるが、コパル・ブニッシュの方は可なり濃い黄色を呈して居る。その爲め明るい畫面に塗ると多少色がつく。此の他佛國製のものでは描く爲めのニス即ち、ヴェルニ・ア・バンドル Vernis a Peindre とか、修正用ニス、ヴェルニ・アルトウーシエー Vernis a retoucher 等がある。

**ヴェルニ・ア・バンドル** は普通溶き油としてボツビー油、リンシード油等と同じ様に用ひられ描きかけの畫面の調子を調へるのに調法な性質を持つ。我國では普通バンドルと呼ぶ。

**ヴェルニ・アルトウーシエ** は古い畫又は描きかけで暫く間を経たものゝ上を更に筆を加へる場合これを混ぜて使用し、又は畫面に塗つて効果あるものとき混せて居る。ヴェルニ・ア・タプロの艶を忌ふ時等に



Z Y

も屢々これを用ひられる。  
グーニツシュ Varnish (英) ヴェルニの項参照。  
ブルーール Valeur (佛) Value ブリュエー (英) 明暗  
繪畫に用ふる術語で、色の調子を單色の濃淡として  
見る場合に用ひられる言葉である。即ち明暗と同意  
義を表はす。

Y

餘 色 補色と同義。補色の項参照。  
餘 白 ブランク・スペース Blank space (英)

空間と同義。空間の項参照。

Z

造形美術、造形藝術 藝術 (アート) を區別して見る  
と、繪畫、彫刻、及び各種工藝、文藝、音樂、劇等  
に分けられる。此の内形態を主にして作らるゝもの  
と、音樂、文藝等の様に形を離れたものがある。  
前者を造形美術と名づけ彫刻、繪畫、各種工藝美術  
は皆其の内に含まれる。

# 卷頭口繪解説



## 巻頭口繪解説

1 眞理（ジュール・ルフエール）灼燦とした眞理の光明を高くかゝげて、暗黒のうちに清淨な裸身を際立たせる女性は、神か、それとも人か。とにかく、まともに立たせたその端正なアウトラインが、しつくりと題意に副つて、其處に相當の効果を収めてゐる。

この繪畫は巴里リュクサンブール美術館に所藏されてゐて、ジュール・ルフエールの作である。ルフエールは一千八百三十六年にトールナンで生れた。十六歳の時郷里の市から給費を得て巴里に出で、レオン・ユギエの門に入つたのであつた。彼の最も得意としたのは古典派の傾きを有つた裸婦であつたが、就中この繪畫は彼の作品中でも最も一般的に知れわたつてゐるものである。一千九百十一年歿。

2 愛の神とプシケ（フランソワ・ゼラール）希臘のある國の王女プシケと、愛の神アムール（羅馬名キュビッド）との可憐な戀の物語——はじめアムールが、その母アフロデイト（羅馬名ヴェニユス）の命によつて、その忌憚に觸れたプシケを害さんとしながら、却つてそれにやみがたい戀情を感じさせられるのに端を發して、やがて或は王女の姉たちの妬心のうちに、或はアフロデイト女神の嚴かな試練のうちに、さらに幾層の曲折を生むやうになるその可憐な物語は、古來すべての藝術の上に、かなり数多くの主題を提供してきてゐる。この繪畫もまた、これに藉りた一つであるので、駘蕩とした野の微風のうちに、プシケがはじめて愛神の接吻を受けやうとするその純情の胸の高鳴りを現はさうとしたものなのである。も



とより氣稟を尙ぶ古典派系畫人の作であるから、其處には燃えさかる情念の閃きと云つたやうなものを窺つたりすることは出来ないけれども、然しきながら能樂のやうなおほらかな感觸のうちに、人は或は、かへつて太古の愛戀の本統の姿を見たりもせやうか。

作者ゼラールは、佛蘭西畫家であるが一千七百七十年に、その頃彼の父がゐた羅馬で生れたのであつた。十歳のころ祖國へ歸つてきて、畫技をはじめブルネに學び、後ダヴィッドの門に入った。そして師の率ゐる古典派の一人として相當によい作を示したりした。一千八百三十七年歿。巴里ルーヴル美術館に所蔵されてある。

3 智、感、情（黒田清輝）女人の裸形に見る線の曲折と姿態の緩急とによつて、人性の種々相を象徴したものである。即ち中央に智を、右に感を、左に情を表現させたものである。しかもまたこの繪畫は、その背景の金色と肉體の色彩との諧調に、かぎりなく豊麗な裝飾的の効果が保もたれてをり、更に、當時の新興藝術運動アール・ヌーボーの影響をうけて外廓に環らされた線條が、和やかな明晰さを以つて、いさう整齊の氣を深めてもゐる。

黒田清輝は、慶應二年に鹿兒島で生れた。はじめ明治十七年に、法律を研究する目的で佛蘭西に赴いたが後、繪畫に志してその地のラファエル・コランに就いて學んだ。明治二十六年に歸朝するや同志久米桂一郎等と共に白馬會を創立して、わが國の洋畫界にきはめて太い一線を劃した。後、帝國美術院長に任ぜられたが、大正十三年に病を以て歿した。美術研究所黒田子爵紀念室蔵……以上油繪。

4・5・6 日本畫に於ける屏風、掛軸は、最も通俗的に人々に親しまれてゐるが、それだけに畫題構圖の撰び方に苦心がある。4・5・6は何れも本校教授の習作より取つた。（4は大原翠波畫伯、5は高山春徳畫伯、6は鈴木鐵彌畫伯）

7・8 の蘭と百合は、日本畫描法の練習用教材として掲げた。筆勢による植物の描法については、日本畫専門の講義にて詳しく述べて行くことになつてゐる。

9 クロッキー（速寫）による動物姿態の練習は、スケッチの講で述べてあるが、凡そ畫家にとつて、風景動物等、練習の教材は諸氏の周圍の至るところが居る筈である。熱心に、それらの對照をスケッチして置くことは繪畫のあらゆる基本勉強となる。

10 宮本三郎畫伯の挿畫の代表的作品である。上は三角寛氏作の丹澤山悲炎記中より、又下は菊池寛氏作の三家庭中より採録した。上は最も野性的な嘆ひのする山窩小説の主題を如實に表現し、下は若いお嬢さんの着換を表現した近代的な潑刺とした調子を出してゐる。挿畫は小説の主題を最も理解し、且つ強調せねばならぬ頗ぶる六ヶ敷い仕事であらう。宮本氏は洋畫系統より挿畫に赴いてゐるので、その調子も亦洋畫風であること言をまたない。

11 中村岳陵畫伯は、10に反して、日本畫の出身である。挿畫も亦、その日本畫の風韻を帯びてゐる。三上於菟吉氏作の妖艶飛鳥劍の挿畫であるが、人體デッサンについては實によく勉強されてゐるだけに、ポーズに些かの狂ひもない作品。



- 12 木村莊八畫伯の習作からとつた。これは唐人お吉の挿畫の構圖の習作であるが、挿畫畫家にも亦、正しいデッサンの勉強がいかに、その作品に及ばずかを示すものである。
- 13 池部均畫伯のカリカチュアのクロッキーから採録したものである。上は宇垣一成さん、下は花井卓造さん議會に於ける瞬間のポーズをこれだけに速寫する技倆を磨かねば、漫畫家としても第一人者にはなれない
- 14 細木原青起畫伯の漫畫であるが、之は夏目漱石の名作「坊っちゃん」の一部である。漫畫は屢々ユーモア小説の挿畫にも現はれるもので、漫畫家にも亦、文學的勉強を必要とされてゐる。
- 15 之は岩田專太郎畫伯の若い時代の圖案であるが、今日氏が挿畫々家として今日の名聲を拍するに至るまでは如何にその畫才を磨いて來たか、と云ふよい一例ともなるもので、頭の下る思ひがある。雜誌のカット圖案の例である。
- 16 之も亦カット圖案の例であるが、作者は同じく田中良畫伯。氏も亦挿畫々家として令名がある。諸君は、兎もすると、挿畫々家に圖案は必要あるまい、日本畫家にデッサンの必要はあるまいと思ふかも知れない。しかし、繪畫の基礎勉強は一つで對照を表現するといふ點にある。ましてや、ジャブナリズムに迎へられんとする畫家（挿畫々家、漫畫家、圖案家）には、多くの智識を吸収せねばなるまい。こゝに諸君の明るい希望と、挽まざる努力の道が開かれてゐる。

昭和十三年十一月十一日印刷  
昭和十三年十一月十五日發行

不許  
複製

繪畫美術教習錄（基礎篇）

各科共用

非賣品

東京市大森區田調布二ノ五二六

編輯兼發行人

高松舵子

東京市日本橋區茅場町二丁目三番地

印刷人 千住達也

東京市京橋區槇町一丁目五番地

發行所

東京繪畫美術學校出版部

電話京橋(56) 八二九二番  
八二九三番

振替口座東京一六一九二二番



終